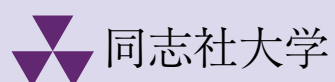




スーパージョーバル大学等事業
「経済社会の発展を牽引するジョーバル人材育成支援」
最終報告書

2017 年 3 月



はじめに	1
------------	---

I 事業概要

1. 目 的	2
2. 概 念 図	3
3. 実施体制	4

II 取組成果

1. 教育課程の国際通用性の向上	5
1-1. 科目ナンバリング制度の導入	5
1-2. ラーニング・コモンズにおける多様な学修支援	5
1-3. 国内外への教育情報の発信	6
1-4. 大学職員のグローバル化	6
2. グローバル人材として求められる能力の育成	10
2-1. グローバル教育センターの開設	10
2-2. 外国人留学生との共修環境	10
2-3. 留学プログラムの拡充	12
2-4. 産業界との連携	15
3. 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの取組	17
3-1. 英語の習熟度別クラス編成	17
3-2. 「Intensive Courses for TOEFL」の開設	17
3-3. TOEIC® IPテスト一斉受験	18
3-4. 各種語学対策講座及びセミナー	20
4. 教育体制のグローバル化	22
4-1. 教員のグローバル教育力の養成	22
4-2. 外国人教員等の採用	23
4-3. Doshisha Global Archives の活用	24
5. 日本人学生の留学を促進するための環境整備	25
5-1. “Go Global”ポートフォリオの活用	25
5-2. ラーニング・コモンズの活用	26
5-3. 留学情報のワンストップサービス	27
5-4. 危機管理とその体制整備	27
6. 西日本第1ブロックの活動	29

III 今後の展開

参考資料	1. 採択後の歩み	34
	2. 中間評価結果	36
	3. 平成27(2015)年度取組概要	37

は じ め に

本学は2006年度から中期目標を掲げて、国際化推進に取り組んでおりますが、2009年度に文部科学省により公募された「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）」（以下、G30）に採択されたのを契機として、建学の精神を一言で表す「良心教育」を核に、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」という教育理念をより高く、より今日的に実践すべく取り組んでまいりました。G30に続き、2012年度に「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（Go Global JAPAN）」（以下、GGJ）に採択され、学生に海外留学の経験をさせる「留学型」と、英語に代表される外国語能力を一定程度備えた学生の輩出を目指す「国内型」の2つの教育プログラムを設定して、本事業に取り組んでまいりました。取組過程を記録・総括し、広く各界の皆様方に説明・開示する務めを果たす一助として取りまとめたのがこの最終報告書です。ご一読くだされば成果の一端をご確認いただけると存じますが、残念ながら、①卒業時の外国語力スタンダードの設定とこれを満たす学生数、②卒業時における「単位取得を伴う海外留学経験者数」については共に、実数・割合は事業採択前よりも飛躍的に増加・上昇したものの、本学としての目標値を達成できませんでした。一方で、③外国語による授業の実施率、④外国人教員等比率、⑤教員の博士号取得率、⑥教員あたり学生数（S/T比）、⑦一定の「外国語力スタンダード」を満たす事務職員の割合については、ほぼ目標を達成いたしました。

私たちの目指すところは、本学の教育及び研究において国際的通用性を実現し、本学を「世界の同志社大学」へと発展させることにあります。同志社創立150周年を念頭に今年度、「同志社大学ビジョン2025」を充実させる形で改訂いたしましたので、その一部である「国際主義の更なる深化」についてここで簡単に紹介いたします。大きく2つに分かれていて、1つ目は「真のグローバルマインドを持つ人物の養成」です。海外渡航による学びの経験を持つ学生の比率を30%まで高め、外国人留学生の比率は13%まで高めます。また、本学には海外の大学や大学の連合体がスタディー・アブロード・プログラム（SAP）の拠点をしていますが、新たな拠点を誘致して日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ環境の拡充を図り、交流企画を展開してSAP科目を受講する本学学生数の倍増を目指します。2つ目は「海外拠点の戦略的強化」です。2017年度からドイツのテュービンゲン大学にEUキャンパスを設置し、機能整備を進めて、同キャンパスで展開する教育・研究プログラムを開発していきたいと考えています。

2016年度には京都市により公募された「京（みやこ）グローバル大学」促進事業に「京都と世界をつなぐグローバルキャンパス“DOSHISHA”」という事業名で採択されました。この事業を推進し、「国際主義の更なる深化」の実現に向けて、私たちは全学をあげて、GGJの補助期間終了後も取組を継続・強化していく所存です。グローバル化のあり方を改めて考えさせられる世界情勢ですが、本学は、創立者新島襄が望んだ「良心の全身に充満したる人物」、グローバル社会に貢献できる人物を輩出するインキュベーターでありたいと考えております。皆様方のより一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

同志社大学副学長・国際連携推進機構長

北 川 雅 章

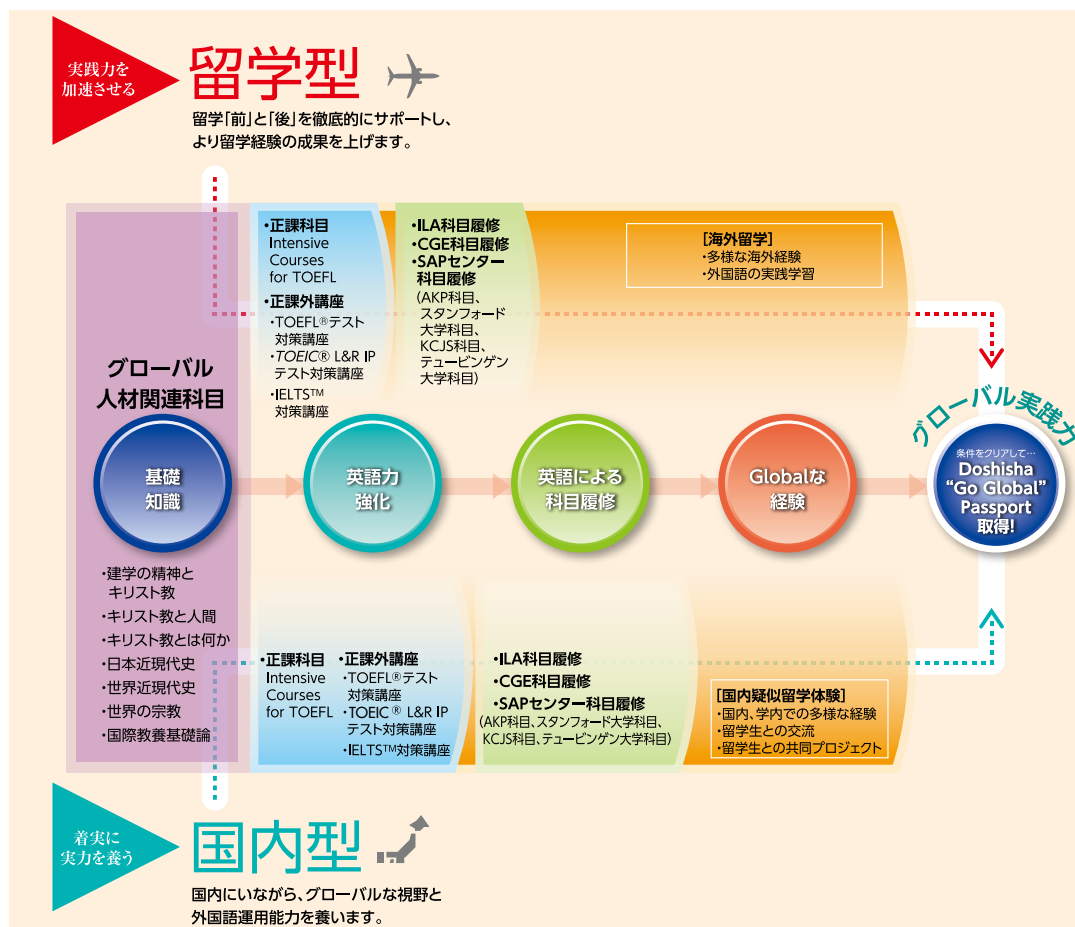
I 事業概要

1. 目的

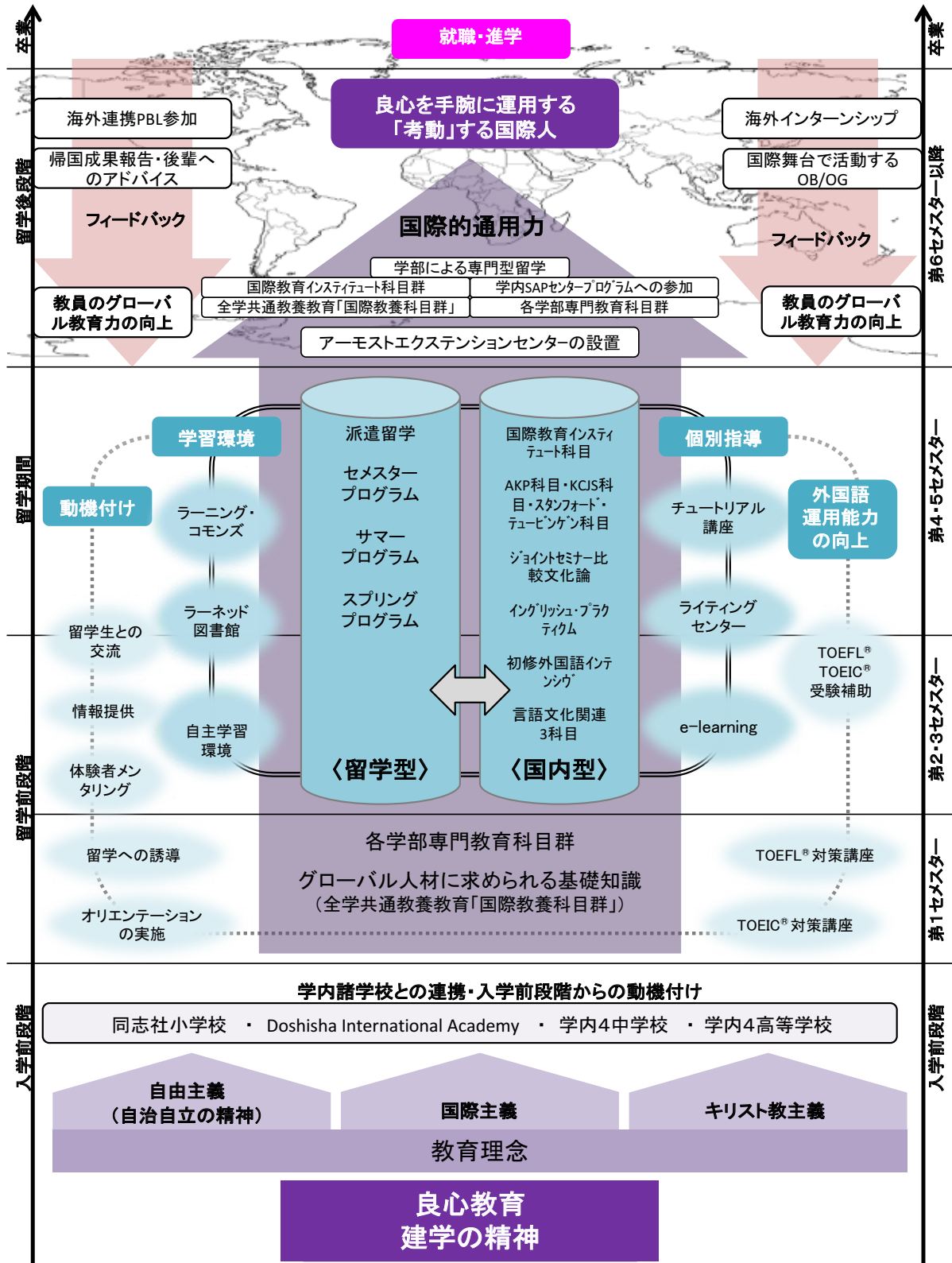
文部科学省補助事業「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（Go Global Japan）」（旧グローバル人材育成推進事業）（以下、GGJ）は、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化を基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るべく、大学教育のグローバル化を目的とした体制整備を推進する事業に対して重点的に財政支援する文部科学省の事業である。

本学では「良心と進取の気性に溢れる同志社グローバル人材養成のための実践的取組（Doshisha Educational Program Filled with Conscience and Enterprise for Global Competence）」が文部科学省「平成24年度グローバル人材育成推進事業」タイプA（全学推進型）に採択された。本採択事業は、留学生の受入を主目的とする「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）」（以下、G30）による留学生の受入促進と対をなし、海外への留学を中心とした本学学生のグローバル化を促進するものである。

本構想は、4年間の在学期間中にわたる学生一人ひとりの全人格的な成長と陶冶、及びそれを支援する教員のグローバル教育力の伸長を促すことを目指している。この実現のために、有機的に連携した二つの教育プログラム、「留学型」と「国内型」を設定しており、「国内型」は国内にしながら、グローバル人材の育成を図る教育実践取組となっている。



2. 概念図



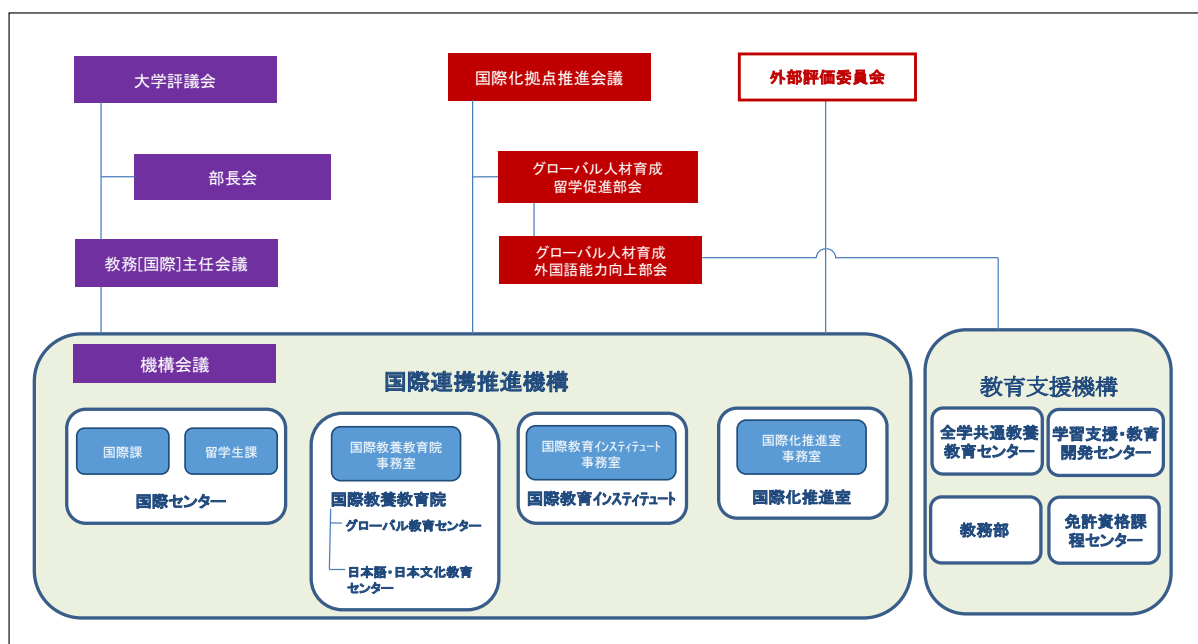
3. 実施体制

G30 の採択を受け事業推進に係る企画立案を総括するために学長直轄の組織として国際連携推進機構内に 2009 年 8 月に設置した国際化推進室を、引き続き GGJ における事業推進に係る企画立案と総括を行う組織として存続させ、事業実施の取りまとめを行った。また全学的な意思決定に関しても G30 採択により設置した、全副学長、財務部長、各機構事務部長等を委員とする「国際化拠点推進会議」において引き続き審議することとし、2017 年 3 月までに 87 回を数えた。GGJ 推進に当たっては、国際化拠点推進会議の下に「グローバル人材育成留学促進部会」(事務局：国際課)及び「グローバル人材育成外国語能力向上部会」(事務局：全学共通教養教育センター事務室)の部会を置き、年間 2～3 回の会議を重ね事業推進に関して PDCA サイクルを意識した活動を展開した。「グローバル人材育成留学促進部会」は、留学促進を目的に協定校の開拓や留学プログラムの開発を計画的に実施するための具体案等を策定している。「グローバル人材育成外国語向上部会」は、正課科目において導入した英語の習熟度別クラス編成や TOEFL のスコアアップを目的とした正課科目「Intensive Courses for TOEFL」に関して、アンケート結果を見ながら運営方針等を策定している。この部会は、現在は教育支援機構の下に置かれているが、もう一つの部会である「グローバル人材育成留学促進部会」と連携して活動している。

G30 において設置した「外部評価委員会」も継続して毎年度開催した。外部評価委員会は、海外有力大学のスタディー・アブロード・プログラム拠点（以下、SAP センター）の各所長、企業関係者、教務支援機構、学生支援機構、国際連携推進機構関係者で構成され、事業の実施状況や成果について第三者評価を受けることで、今後の事業推進の参考とした。

国際化拠点整備関連の補助金事業終了に伴い、「国際化推進室」及び「国際化拠点推進会議」は2017年3月31日付け廃止とし、関連の継続事業は、国際連携推進機構内において継承する。

【国際化推進体制】



Ⅱ 取組成果

1. 教育課程の国際通用性の向上

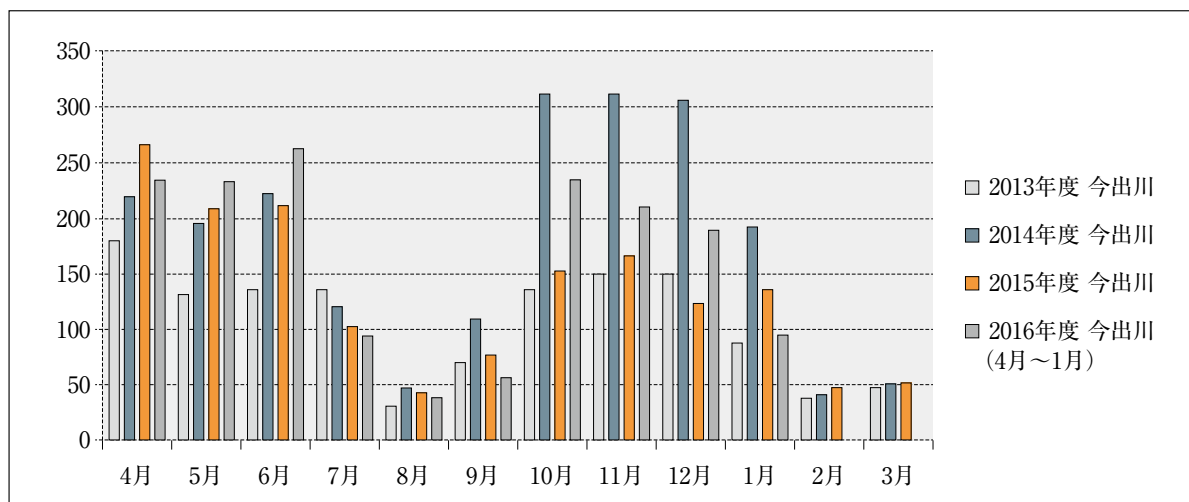
1-1. 科目ナンバリング制度の導入

教育課程の体系性を明示し、海外の大学との単位互換を推進するために、国際通用性を意識した科目ナンバリング制度を導入した。2012～2013年度に国内外の先行導入事例の調査を行い、2013年度にナンバリング作業実施の課題整理を行うため、全学部・研究科教職員を対象に科目ナンバリング制度の意味と機能を理解するための講演会を開催した。その後科目分類・番号体系の仮フォーマットを基に、設置科目のナンバリング作業のワークショップを全学部・研究科対象に行った。2014年度に学部課程におけるナンバリング作業を正式に実施・完了し、2015年4月から公開している。また、2015年度には大学院課程のナンバリング作業に着手し、2016年度から公開している。海外留学を志す学生の利用やダブルディグリー制度での参照利用に向けて大学HP等で周知した。既に導入している世界標準のGPAによる成績評価制度と今回の科目ナンバリング制度導入により、海外の大学との信頼性が更に高まり交流の発展・強化につながった。

1-2. ラーニング・コモンズにおける多様な学修支援

学生の能動的学習の場として、2013年4月に開設した本学ラーニング・コモンズは、良心館2階及び3階部分の総面積約2,550㎡という巨大な学習空間である。ラーニング・コモンズには、専従のアカデミック・インストラクター（3名）、ラーニング・アシスタント（約15名）、学習支援コーディネーター（1名）、留学コーディネーター（1名）及び留学アシスタント（約10名）が常駐する。開講期平日は3,000～3,500名/日の学生が利用しており、ライティングやプレゼンテーション等のアカデミック・スキル養成、アイデア拡張法といった多種多様なプログラムを実施しながら、学習相談を展開している。また、留学コーディネーターや留学アシスタントは年間2,000件を超える留学相談を受け、ワンストップでの支援に当たっている。

【相談件数の推移】



1-3. 国内外への教育情報の発信

本学 HP において、日本語、英語、韓国語、中国語（繁体字及び簡体字）の5言語での情報発信を行っている。日々の情報発信を中心に、本学の教育理念から学部・研究科名称とその概要、教員情報、国際交流状況、学生・教員数、年間予算等の基本情報を公開している。また、外国人留学生のために、入学試験情報、奨学金、宿舍、キャリア支援や就職実績等の情報も5言語で提供している。同時に日本語のみではあるが、大学の全貌を概観できる「基礎データ集」の公開や在学生のページでは、シラバスをはじめ「学部別授業評価アンケート」「授業講評」や「各科目・クラス毎のGPA分布」を公開しており、本事業についても「文部科学省『経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（Go Global Japan）』取組の概要」として特別にページを設けている。

また、国際センターで独自に開設した Facebook では、本学が開催するシンポジウムの案内、日本人学生と外国人留学生との交流イベント情報や留学生生活の体験談等から本学における国際化の取組まで幅広いトピックスを、日英併記により発信しており、2017年2月現在で3,132件以上の「いいね」がある。

本学の海外事務所（台北、ロンドン、ハノイ、北京、上海、ソウル、イスタンブール）では現地の高校を中心に広報活動を展開している。特に海外指定校推薦入学制度による入学者が多い韓国では、ソウル事務所を中心に本学を紹介するプレゼンテーション用資料を韓国語で作成し、韓国の高校訪問時や父母対象説明会及び相談対応時に活用する他、各地の海外事務所でも本学の様々な情報を提供している。



2016年1月韓国父母懇談会



ソウル事務所

1-4. 大学職員のグローバル化

2010年度に発足した英文化ワーキンググループは、職位・雇用形態に拘らず参加を促しており、基本的な学内文書の英文化については既に完了し、本学 HP の国際連携推進機構のページにおいて全学で共有している。英文化ワーキンググループでは、英文化促進に加えて国際化推進・強化に関する啓発や外国人留学生の受入手続き等実践的スキルの向上も課題としており、職員の国際通用性能力の涵養に努めている。

【英文化ワーキンググループ開催実績】

年度	開催回	参加者数	内容・テーマ
2012 年度	第 1 回	42 名	①文書の多言語化について
			②外国人留学生を対象とした入試に利用される語学能力証明書等について
2013 年度	第 1 回	50 名	①留学生のアルバイト、資格外活動許可について
			②グローバル人材育成推進事業について
2014 年度	第 1 回	49 名	①グローバル人材育成推進事業～海外活動を伴う正課科目履修者に対する奨学金について～
			②国際教育インスティテュート概要について
	第 2 回	47 名	①大学間協定と学部（研究科）間協定について
			②国費外国人留学生制度について
			③学内文書の多言語化について
	第 3 回	40 名	①「トビタテ！留学 JAPAN」国が取り組む海外留学促進奨学金制度とその獲得
			②進化する国際寮（寮内留学）
	第 4 回	43 名	①“Go Global” ポートフォリオの現状と課題
			②学内文書の多言語化について
2015 年度	第 1 回	32 名	①学外の留学プログラムの利用と活用について
2016 年度	第 1 回	35 名	①グローバル化に伴う課題について（学生の派遣・受入を中心に）
	第 2 回	53 名	①危機管理「海外重大事故対応」 ※国際化推進室との共催
	第 3 回	28 名	①テンプル大学ジャパンキャンパス主催国際化推進担当職員研修（米国大使館助成プログラム）～本研修を通して学んだ点（大学職員の視点）～
			②世界大学ランキングについて（Times Higher Education 中心）
			③その他（留学生向け奨学金 採用決定者の傾向について）

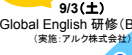
2013 年度から新入職員対象に通信教育を利用した語学研修を入社前に実施、これまでに 40 名が受講した。その他、教員対象に 2012 年度から英語による教授法を学ぶための FD 研修を毎年度、企画・実施しているが、新たに 2016 年度に職員対象に「Global English 研修」を企画・実施した。人事企画課が 2014 年度に実施した「Global Communication 研修」及び「Global Mind 研修」は主としてグローバルマインドの醸成を目的としていたが、「Global English 研修」は職場ですぐに活かせる実践的な英語力の習得とその学習へのモチベーション向上を目的としており、2016 年度は 3 つの研修を「Global 研修」としてニーズや学習段階に応じた研修

～職員対象～ Global 研修

職員のグローバルマインドの醸成、職場で生かせる実践的な英語力向上を図るため、専任職員を対象に研修を実施します。
今年度は、2014年度に好評をいただいた2つの研修に加え、英語学習から離れていた方や、英語に苦手意識を持った方を対象とした研修を追加しました。参加希望者は、各プログラムの狙いや受講対象条件等を確認のうえ、下記より申し込みを行ってください。



8/11(木・祝)
Global Communication 研修
- E-mail writing
- 英語窓口対応
- 電話英語対応
(実施: IES株式会社)



9/3(土)
Global English 研修 (Basic)
(実施: アルク株式会社)



8/6(土)
Global Mind 研修
(実施: ペリリッパ・ジャン株式会社)

skill
mind

○各プログラム詳細: 個別のチラシをご覧ください。
8/6(土) Global Mind 研修 → P.2
8/11(木・祝) Global Communication 研修 → P.3～5
9/3(土) Global English 研修 (Basic) → P.6

○申込み方法 (各プログラム共通):
8月27日(月)17時までに、「自己啓発研修」申請書を人事企画課へご提出ください。
申請書は教職員のページからダウンロードすることができます。
(教職員のページ ホーム > お知らせ > 教職員研修の「職員研修」の項目)
※参加の可否については、7月4日(月)までに人事企画課からお知らせします。

○その他:
・受講料は無料です。(大学が負担いたします。)
・各プログラムの併催は可能です。
なお、Global Communication 研修については、過去に受講したテーマの再受講はできません。
・本研修は、勤務扱いとはなりません。
・研修参加後1ヶ月以内に、「自己啓発研修」報告書」を人事企画課へご提出ください。

Global研修案内チラシ

ALC Education Inc. 研修のご案内 (株)アルク教育社

～シンプルな英語で伝える～現場で使えるコミュニケーション

Global English研修

対象 英語に苦手意識をお持ちの方
学生以来、英語学習から離れていた方
英語コミュニケーションの壁を壊したい方

内容 ○大学実務に必要な英語とは?
○中学レベルの文法・語彙を思い出して、フル活用
○英語を話すためにマインドセットを身に付ける

特徴 筆記や・口頭での豊富な練習量
ペアやグループでのアクティビティが豊富で安心
自分の仕事や興味に関する内容への応用

留学生への対応やネイティブ職員と協働する機会が増え、お困りではありませんか?



English

易しい言葉

柔軟な発想

シンプルな構文

Confirmation Clarification

➡

Better Communication

スケジュール

9:30	オリエンテーション 1. 音 伝えるためのポイント確認 2. スピーキングのための基本語彙&文法の復習	左記スケジュールは受講生の習熟度により変更の可能性が あります。 日時: 2016年9月3日 (土) 9:30～17:30 会場: 扶桑館105・106 定員: 8名×2クラス 申込: 国際化推進室まで ji-glb30@mail.doshisha.ac.jp 075-251-3300 ※申込者が多い場合は調整させていただく場合があります。 申込締切: 2016年7月29日 (金) 主催: 国際連携推進機構 国際化推進室
10:30	a. 基本語彙 (一般・重要動詞) b. Major error & minor error c. 基本文型確認 d. シンプルな文を作ってみよう	
14:30	3. 発想力を磨く5つのポイント a. 5つのポイントを紹介 b. 作文練習 (基礎) c. 応用練習 *筆記と口頭にて練習	
16:30	4. 仕事紹介 / 学校紹介 / 観光地紹介 ペア・グループアクティビティを活用し、 インタラクティブに練習。	
17:30	5. Q&A, 学習アドバイス	

Global English研修案内チラシ

を実施し、どのレベルにあっても適切な Global スキルが身につく仕掛けになっている。

なお、他大学と連携した取組としては、GGJ 採択を機に、2013 年度から早稲田大学と大学職員のグローバル化に関する SD ワークショップを毎年度共同開催し、職員のグローバル化及び質の高度化を図ってきた。職員の立場から大学の国際化推進に関する取組や課題を共有し活発に意見交換を行うと共に大学や部署を超えての交流は新たなネットワーク構築の場となった。また本ワークショップを通じて、社会に大学のグローバル人材育成の取組について広く発信することができた。

第1回から第3回までは、派遣留学者数の増加に向けた取組など個別課題についての事例発表と意見交換が主であったが、GGJ 最終年度であり締めくくりとなる第4回は、「グローバル社会における大学の役割～大学職員の立場からのアプローチ～」と題して開催、大学のグローバル化推進の牽引役となる職員の育成に焦点をあて、今後ますますグローバル化するキャンパスの中で職員が担う役割や求められる資質について事例発表とパネルディスカッション形式の討論がなされた。大学のグローバル化の取組により大学職員がどのように変化したか、また今後担うべき役割や求められる能力について考える良い機会を提供することができたと同時に、補助金事業終了後の大学の取組や事業に伴う予算についての言及もあり、具体的課題を明らかにすることができた。

【共同 SD ワークショップ開催実績】

回	開催日程	場 所	参加者数
第1回	2013年6月21日(金)	リーガロイヤルホテル東京	180名
第2回	2014年11月28日(金)	同志社大学寒梅館2階	116名
第3回	2015年7月8日(水)	早稲田大学国際会議場	150名
第4回	2016年9月22日(木)	同志社大学ハーディーホール	120名

**経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援 Go Global Japan**

第2回 同志社大学・早稲田大学
共同SDワークショップ

参加費無料

**2014年11月28日(金)
12:15受付開始**

同志社大学 今出川校地
室町キャンパス
寒梅館 (KMB) 2階

第1部 講演会
12:45 開会の挨拶
12:55 - 13:45 講演1 同志社大学学長・村岡 義典
演題: 「SDG(持続可能な開発目標)と教育と社会」
13:45 - 14:30 講演2 日本経済新聞社 編集委員・後藤 健彦 氏
演題: 「世界経済の進化と日本経済のグローバル人材のあり方」

第2部 分科会 (各分科会定員40名程度)
「学生にとってのグローバルキャンパスを体験して」
14:40 - 16:10
A 学生のグローバル化を促す大学環境整備
→外国人留学生との交流促進を図る方策などについて
同志社大学留学生課オフィスマネージャー 湯ヶ林 隆二 氏
早稲田大学学生部事務課国際交流センター課長 眞藤 隆
同志社大学留学生課長 中澤 伸夫
B 海外留学への学生支援促進に向けた課題
→学生の海外活動に役立つ情報提供について
立命館アジア太平洋大学アジアセンター・オフィス運営部長 阿部 孝雄 氏
早稲田大学留学生センター・国際プログラムコーディネーター 眞藤 隆
同志社大学国際課長 山口 隆典
C 学生のキャリア設計への支援
→グローバルな社会で活躍できる人材の輩出に向けて
上智大学経済情報学系教員グループ長 中橋 徳久 氏
早稲田大学国際留学生支援部部長 山口 隆之
同志社大学国際課長 中橋 隆仁

第3部 総括
16:30 - 17:00 19科目からの報告・総括
17:00 - 17:30 質疑応答
17:30 閉会の挨拶

第4部 レセプション(交流会)
18:00 - 19:30 会場 寒梅館1号 Hamac de Paraiso 特別部
参加費 2,000円
※昼食(前日・当日)のキャンセルの場合は、参加費を申し受ける
場合がございます。

重要なお知らせ・締切11月1日(金)まで
同志社大学のホームページよりお申し込み下さい。
http://www.doshisha.ac.jp/event/2014/1003/
event-sdworkshop-012.html
※お申し込み期間を延長しました。
※変更になりました。ご確認ください。

主催/同志社大学・早稲田大学
協賛/同志社大学 国際課 (TEL) 075-251-1294 (FAX) 075-251-3037
(E-MAIL) p-ksa@ed.doshisha.ac.jp

文部科学省
経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 **最終年度**

**第4回
同志社大学・早稲田大学
共同SDワークショップ**

**グローバル社会における大学の役割
～大学職員の立場からのアプローチ～**

**2016年9月22日(木)
12:45(受付開始 12:15)**

同志社大学 室町キャンパス ハーディーホール

第1部 講演会
司会: 同志社大学国際課長 紀平 尚利
12:45 開会の挨拶
同志社大学学長・阿部 孝雄 氏
12:50-13:30 講演
文部科学省高等教育政策課長 国際企画部長 村岡 義典 氏
13:30-14:15 事例報告 (13:30-14:15:00)
事例1 早稲田大学人事部長 長村 勉 氏
「国際化推進センターの取り組み」→国際化の現状
事例2 同志社大学学長 阿部 孝雄 氏
「グローバル化を契機とした職員の能力向上と期待される役割」
事例3 同志社大学室町キャンパス2階長 眞藤 隆 氏
「関西学院の進化する国際化(グローバル化)の取り組み」

～Coffee Break～

第3部 パネルディスカッション
15:20-17:10 パネルディスカッション
コーディネーター
早稲田大学・国際課企画課長 眞藤 隆 氏
17:10 閉会の挨拶
早稲田大学国際課長 眞藤 隆 氏

第4部 レセプション(交流会)
17:30-19:00
会場 寒梅館1号 Hamac de Paraiso 特別部
参加費 2,000円(学生) ※前日・当日のキャンセルの場合は、参加費を申し受ける
場合がございます。

重要なお知らせ・締切9月18日(金)
同志社大学のホームページよりお申し込み下さい。
http://www.doshisha.ac.jp/event/2016/0623/event-sdworkshop-012.html

主催/同志社大学・早稲田大学
問合せ/同志社大学 国際課 TEL 075-251-3260 E-MAIL p-ksa@ed.doshisha.ac.jp

共同SDワークショップチラシ

2. グローバル人材として求められる能力の育成

2-1. グローバル教育センターの開設

2016年4月に英語による授業科目提供の量的・質的拡大と教養教育環境のグローバル化を目的に、グローバル教育センター（Center for Global Education）（以下、CGE）を開設した。CGEが提供する科目を履修する「グローバル・リベラルアーツ副専攻」は、少人数制、日本人学生と外国人留学生との共修、英語で開講される教養教育科目の履修を特徴としており、全学部生が1科目から履修することが可能である。初年度は27科目45クラスを開講し、延べ741名、実人数で556名の学生が受講した。CGEが提供する科目の受講には概ねTOEFL500点以上の英語力を求められるが、この基準に達していない学生もチャレンジできる講義科目や語学研修を目的としない海外フィールドワーク科目（日本人学生対象）等も提供しており、各自の語学力や関心に応じて、履修できる環境が整っている。



CGE提供科目の授業風景

CGE提供科目説明会案内チラシ

2-2. 外国人留学生との共修環境

「国内型」の学生が本学キャンパスに居ながらグローバル人材になりうるために、擬似留学体験の場を数多く創出した。

正課課程においては、①CGE、②国際教育インスティテュート（The Institute for the Liberal Arts）（以下、ILA）の国際専修コース、③本学に留学拠点を置く海外の大学のSAPセンターがある。

2011年4月開設のILAは、英語でリベラルアーツ教育を行う学部横断型の組織であり、主として外国人留学生が学ぶ学士学位取得プログラムである「国際教養コース」と「国際専修コース」で構成されている。「国際専修コース」は、文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、政策学部の学生が「国際教養コース」の学生と共に学べるコースであり、ILA提供

科目から約 20 単位を履修し卒業単位に算入できる。「国際教養コース」は開設以来、世界約 40 カ国・地域から学生を受入れており、ほとんどの授業を少人数クラスとし、ディスカッションやディベート及びグループワークを取り入れて、学生と教員が対話しながら進んでいく。特に日本人学生にとっては多様な文化・宗教・習慣・価値観に出会える交流の場となっている。

本キャンパス内には、海外有力大学が日本語・日本研究拠点として開設した 4 センターが揃い、独自の日本プログラムを実施している。SAP センターの一部科目は国際教養科目（AKP 科目、テュービンゲン科目、スタンフォード科目、KCJS 科目、ジョイント・セミナー比較文化論）として本学学生にも提供されており、一定の英語力があれば履修することができる。これらの科目の受講により、留学することなく、アメリカやドイツの大学生たちと共に学ぶことができるという疑似留学体験のみならず、価値や文化が多様な環境を経験することで、留学希望者にとっては将来の留学の効果的な準備を可能としている。また、各機関の加盟校への学生派遣や SAP センターの各所長が本事業外部評価委員会委員として毎年度本事業の進捗状況等の検証、評価を行う等の連携関係を構築している。

【SAP センター一覧】

AKP 同志社留学生センター（AKP）（Associated Kyoto Program） [1972 年設置] アーモスト大学、ベーツ大学、バックネル大学、カールトン大学、 コルビー大学、コネチカット大学、マウントホリヨーク大学、オーバリン大学、ポモナ大 学、スミス大学、ウェズリアン大学、ウィットマン大学、ウィリアムズ大学のリベラル・ アーツ・カレッジの名門 13 校で構成、毎年約 30 名の外国人留学生を受入れている。	
テュービンゲン大学同志社日本研究センター（TUB） (Tübingen University Center for Japanese Studies in Kyoto) [1993 年設置] ヘーゲルやケプラーを輩出したドイツのテュービンゲン大学の日本研究拠点で、4 月から翌 年 2 月上旬までの期間、約 25 名の外国人留学生を受入れている。	
スタンフォード日本センター（Stanford Japan Center） [2006 年設置] アメリカの名門スタンフォード大学の学部生が参加する日本留学 プログラム「Stanford Program in Kyoto」を運営、毎年約 35 名の 外国人留学生を受入れている。	
京都アメリカ大学コンソーシアム（KCJS） (Kyoto Consortium for Japanese Studies) [2009 年設置] 京都アメリカ大学コンソーシアムは 1989 年に設立され、ボストン 大学、ブラウン大学、コロンビア大学、コーネル大学、シカゴ大学、エモリー大学、ハー バード大学、ペンシルヴァニア大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、ワシント ン大学（セントルイス）、イエール大学、バージニア大学などの総合大学が加盟しており、 KCJS プログラムに参加する外国人留学生は 2 年以上の日本語学習経験があり、日本語や日 本文化に深い関心を持って来日する。	

一方、正課外の実践においても多様な外国人留学生と日本人学生との交流の場を提供している。2013 年 10 月に留学生課の下に「SIDE (Student Staff for Intercultural Event at Doshisha)」(以下、SIDE) を組織し、学生スタッフが主体となって日本人学生と外国人留学生の国際交流イベントを企画・開催している。また、短期プログラムで来日する外国人留学生の「スタディーパートナー制度」を設け、日本人学生に海外の大学と同じの授業を聴講する機会やフィールドワーク等で交流する機会を提供している。

【SIED 企画開催実績】

年度	開催回数	延べ参加者数	うち日本人学生
2013 年度	13 回	129 名	81 名
2014 年度	116 回	1,135 名	675 名
2015 年度	152 回	2,253 名	1,280 名
2016 年度	158 回	2,840 名	1,512 名

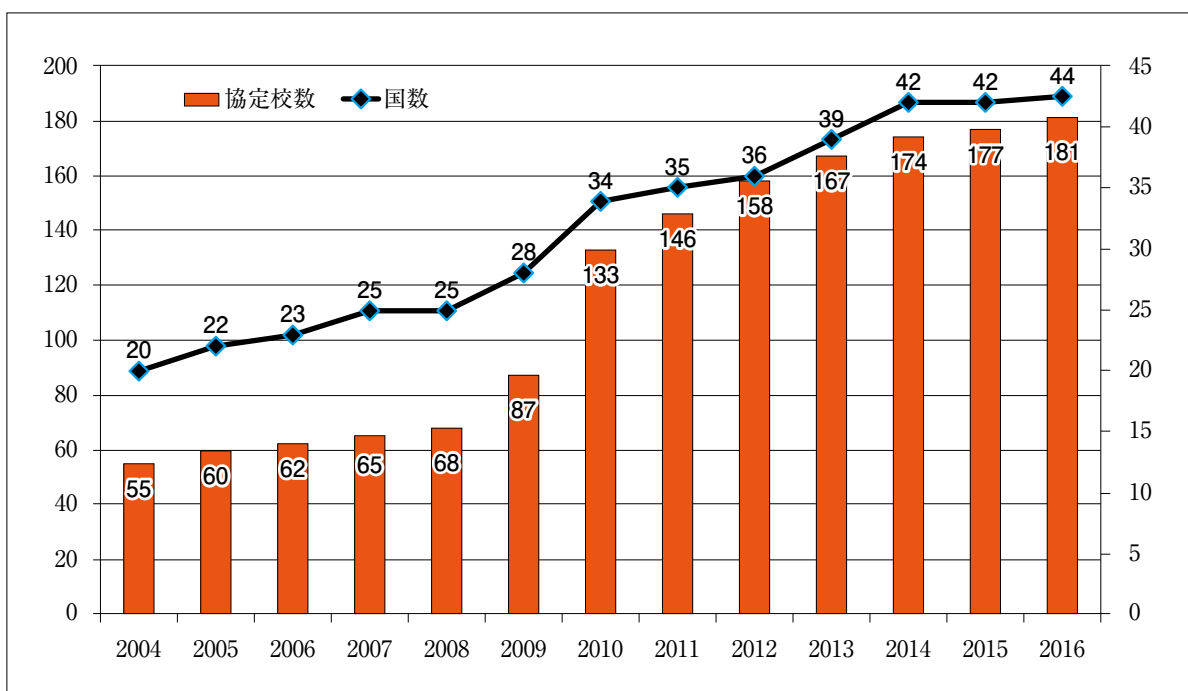


SIED企画案内チラシ

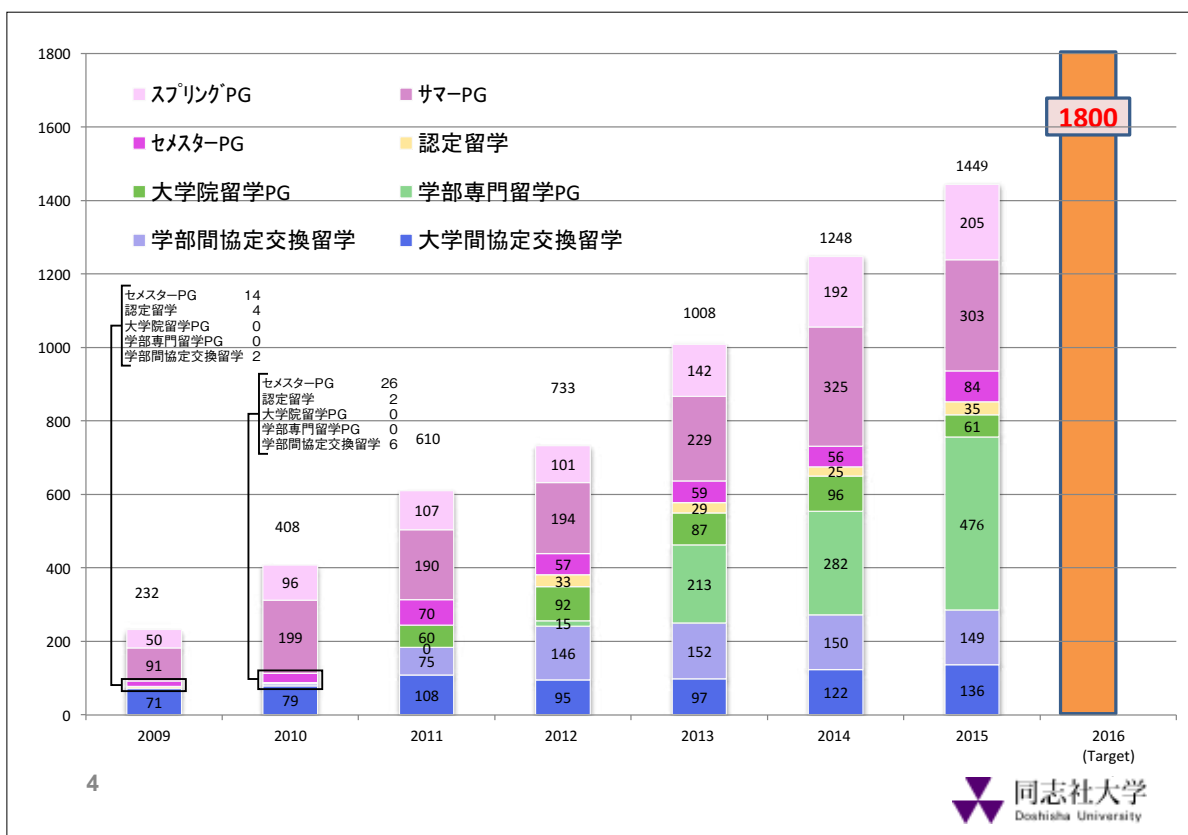
2-3. 留学プログラムの拡充

全学的な留学プログラムについて、短期はサマープログラムとスプリングプログラムを、中期はセメスタープログラムを、中～長期は外国協定大学派遣留学制度を用意している。また、認定留学制度の積極的な活用に向けて、外部2機関（SAF、JSAF）と連携し学生に幅広い留学の選択肢と機会の提供を行った。同時に、国が推奨する留学制度「トビタテ！留学JAPAN」（以下、「トビタテ！」）についても文部科学省と連携して関西地区の大学対象に今出川キャンパスで説明会を実施した。また、本学学生を対象に「トビタテ！」留学経験者による説明会や相談会等の企画を定期的に提供するなど、制度の積極的な周知と活用を進めた。その他、2014 年度から海外インターンシップ科目を、2016 年度から海外フィールドワーク科目を全学部生対象に開設した。同時に、学部専門型プログラムの開発・提供やゼミ等での海外渡航の奨励を行い、活動を支援するため各種奨学金制度を新設・充実させた。

【協定大学数の推移】



【海外への留学者数の推移】



【大学独自の奨学金制度一覧】

海外活動を伴う正課科目履修者に対する奨学金
サマープログラム及びスプリングプログラム履修者に対する奨学金
セメスタープログラム履修者に対する奨学金
外国協定大学派遣留学生に対する奨学金
認定留学生に対する奨学金
同志社大学大学院学生の外国派遣に対する奨学金
その他（学部独自に導入している所属学生への奨学金）

GGJ 採択後に策定した日本人学生の海外留学者数増の具体策は、海外留学を①専門型留学、②学部必修留学、③派遣留学、④中期語学留学、⑤短期語学留学の5つのカテゴリーに分けて、事業開始時の2012年度には合計711名であった実績数値を最終年度の2016年度には合計1,800名とするものであった。

「①専門型留学」では、各学部長にプログラム新設への協力を要請すると共に協定締結や学生引率時の旅費補助制度等の支援を拡充した。また、「②学部必修留学」を推し進める環境としては、2011年4月にグローバル・コミュニケーション学部を、2013年4月にグローバル地域文化学部を開設した。グローバル・コミュニケーション学部の英語コース（80名）と中国語コース（40名）は各言語圏での1年間のStudy Abroadを必修としており、グローバル地域文化学部（180名）もスタディ・アブロード科目群（海外フィールドワーク、海外インターンシップ、海外研修）からの履修を卒業要件に課している。「③派遣留学」では、学生交換協定校の拡充により海外への日本人留学者数増を目指して、随時プログラムの見直しや検討を進め、大学間協定に基づく派遣留学者についてはGGJ最終年度170名を目標とし、協定校のない国の開拓やFeeベースでの協定、語学要件緩和の打診等へのアプローチにより、学生に多種多様な選択肢・機会を提供することが可能となった。また、「④中期語学留学」及び「⑤短期語学留学」では、留学プログラム数増を図った。セメスタープログラム、サマープログラム、スプリングプログラムは海外における中短期集中の語学学修プログラムであり全学共通教養教育科目として全学部生に提供しており、プログラム内容は教育支援機構が、運営・実施は国際センターが担っている。国際化拠点推進会議の下に置かれた部会「グローバル人材育成留学促進部会」において当初21プログラムあったものを最終年度に合計35プログラムとする年次計画を立てて実施案を策定した。

日本人学生の海外留学に向けて、国際連携推進機構だけではなく、各学部や教育支援機構、学生支援機構と連携して海外留学を志向し実践できる環境作りを推し進めた。本学が策定したグローバル人材育成プログラムの「国内型」は、費用等の理由で海外留学が出来ない学生も大学キャンパスのグローバル化を進めることで正課・正課外の活動を通じてグローバル人材になりうるプログラムであるが、「国内型」の学生が在学中だけでなく、卒業後に海外留学を志向する例もある。今後は、海外留学を志向する学生に対しその実現に向けての障壁をできるだけ取り除き、将来も見据えた支援を実践していきたい。

【留学プログラム数の推移】

プログラム名		2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
サマー プログラム	英語	9	9	11	13	12
	初修外国語	6	6	7	8	7
スプリング プログラム	英語	3	4	6	7	7
	初修外国語	4	4	5	5	5
セメスター プログラム	英語	3	3	3	3	3
合 計	英語	15	16	20	23	22
	初修外国語	10	10	12	13	12

2-4. 産業界との連携

2014 年度から全学共通教養教育科目として海外インターンシップ科目「キャリア形成とインターンシップ」を開設した。キャリアセンターの企画・運営の下、本学での事前事後講座とロサンゼルスでの就業体験で構成されており、毎年度約 20 名の学生が履修、インターンシップ受入先の開拓や学生との交流等を現地校友会と連携して進めた。その他にも、学部専門型の正課インターンシップ科目としてはグローバル地域文化学部の「海外インターンシップ」や生命医科学部が文化情報学部の協力を得て開設した「特別講義：日系企業のグローバル戦略及び海外企業体験」等を提供している。

【海外インターンシップ科目履修者数】

提供学部等	2014 年度	2015 年度	2016 年度
全学共通教養教育センター	19 名	19 名	15 名
グローバル地域文化学部	14 名	21 名	17 名
生命医科学部	—	32 名	17 名

2013 年度からキャリアセンターがグローバルキャリアフェアを両校地で実施、将来グローバルに活躍したい学生に向けて学内横断でグローバル関連のイベントを集中的に開催し自らキャリアについて考える機会を提供した。

【グローバルキャリアフェア開催実績】

年度	開催日程	延べ参加者数
2013 年度	2013 年 6 月 13 日（木）～ 7 月 13 日（土）	648 名
2014 年度	2014 年 6 月 13 日（金）～ 7 月 11 日（金）	800 名
2015 年度	2015 年 6 月 15 日（月）～ 7 月 11 日（金）	866 名
2016 年度	2016 年 6 月 13 日（月）～ 7 月 12 日（木）	610 名



グローバル
キャリアフェア
案内チラシ



インターン・
ガイダンスの様子



企業セミナー
の様子

GGJにおいてもG30で設置した外部評価委員会を、新たに企業関係者を委員に迎える等刷新した形で引き続き毎年度開催し、本事業の進捗と今後の展望について報告し、今後に向けての評価と助言をいただいた。

【外部評価委員会委員一覧（2016年度）】

企業・大学	役職
ダイキン工業株式会社	人事本部採用グループ長、部長
パナソニック株式会社エコソリューションズ社	人事センター人材・能力開発部 部長
株式会社堀場製作所	理事、管理本部副本部長
村田機械株式会社	業務支援本部 人事グループ課長
AKP 同志社留学生センター	所長
チュービンゲン大学同志社日本研究センター	所長
スタンフォード大学京都プログラム	所長
京都アメリカ大学コンソーシアム	所長
同志社大学学生支援機構	事務部長
同志社大学教育支援機構	副学長／機構長
同志社大学教育支援機構	事務部長
同志社大学国際連携推進機構	副学長／機構長
同志社大学国際連携推進機構	国際センター所長
同志社大学国際連携推進機構	国際化推進室長
同志社大学国際連携推進機構	事務部長

【外部評価委員会開催実績】

年度	回	開催日程
2012年度	第4回	2013年3月5日（火）17：00～19：00
2013年度	第5回	2014年3月4日（火）18：00～20：00
2014年度	第6回	2015年2月17日（火）17：30～19：45
2015年度	第7回	2016年2月23日（火）17：30～19：35
2016年度	第8回	2017年2月2日（木）18：00～20：00

3. 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの取組

3-1. 英語の習熟度別クラス編成

2014年度から、英語の習熟度別クラス編成を京田辺校地の全学部で先行して実施した。年次計画により対象学部を順次拡大し、2015年度からは京田辺校地全学部に加えて今出川校地の神学部、文学部、社会学部、商学部、グローバル地域文化学部の5学部が、2016年度からは法学部、経済学部及び政策学部が加わり、両校地の全学部で実施している。

習熟度別クラス編成では、入学直後実施のプレイスメントテスト（CASECを利用）の結果により1年次生科目「コミュニケーション・イングリッシュ1」「コミュニケーション・イングリッシュ2」を習熟度別に編成するほか、同科目では、プレイスメントテストと同じテストを学期末に受験（年3回受験）させ語学レベルを測定する等、教育効果の検証を行っている。また、全レベル共通のCEFRに基づく統一成績評価基準とレベル毎の指導要領及び教科書リストを策定する等、質保証と教育効果を最大限に高める工夫をしている。習熟度別クラス編成の企画、点検・評価は全学共通教養教育センターの下に設置されている習熟度別外国語教育検討部会で行っている。

2016年度春学期の「コミュニケーション・イングリッシュ」の学生アンケートでは、「授業はシラバスに沿って進められた」「授業の説明はわかりやすかった」「この授業の目的が理解できた」「この授業に満足した」「習熟度別のクラスで良かったと思いますか」の項目で、概ね8割前後の受講生が「強くそう思う」「そう思う」と回答しており、学生からの評価は高い。

【英語の習熟度別クラス数の推移】

年度	校地	High Intermediate (CASEC 614 以上)	Intermediate (CASEC 613 ～ 460)	Pre-Intermediate (CASEC 459 以下)
2014 年度	京田辺	14	34	16
2015 年度	今出川	22	36	14
	京田辺	18	39	17
2016 年度	今出川	44	73	29
	京田辺	18	38	18

3-2. 「Intensive Courses for TOEFL」の開設

2013年度に TOEFL® のスコアアップを目的とした正課科目「Intensive Courses for TOEFL」（以下、「I.C.T.」）を新設し、担当者として全学共通教養教育センター所属の任期付教員3名を新規採用した。「I.C.T.」には、「Intensive Courses for TOEFL (Practice)」と「Intensive Courses for TOEFL (Tutorial)」の2科目があり、これら2つの科目を同じ学期にセットで履修するが、Practice、Tutorial いずれも定員20名（2013年度「I.C.T. (Tutorial)」のみ定員15名）の少人数クラスで、英語学習に関することだけでなく、留学希望者に対する海外大学選定の相談等、きめの細かい個別指導を行っている。また、課外の取組である TOEFL® テスト集中対策講座についても「I.C.T.」担当教員がアドバイザー的にサポートしながら実施する形とした。

【「I.C.T.」登録希望者数及び登録者数の推移】

年度	校地	登録希望者数	開講クラス数	登録者数
2013 年度	今出川	1,128 名	12	215 名
	京田辺	195 名	6	106 名
2014 年度	今出川	653 名	25	361 名
	京田辺	219 名	12	148 名
2015 年度	今出川	1,171 名	29	500 名
	京田辺	268 名	12	160 名
2016 年度	今出川	1,364 名	33	588 名
	京田辺	356 名	12	209 名

3-3. TOEIC® IP テスト一斉受験

2015 年度（2016 年 2 月 17 日）に全学部 3 年次生対象に受験料大学負担で TOEIC® IP テスト一斉受験を実施した。GGJ の取組である学生の外国語能力向上の支援と成果（外国語能力スタンダード）の確認、及びグローバルキャリアを見据えた就職活動の支援が目的である。各学部の協力を得てゼミ等の授業での周知ビラ配布、キャリアセンターのガイダンスでの周知ビラ配布等全学的対応で周知に努めた。

2016 年度（2017 年 2 月 17 日）も全学部 3 年次生及び留学等により昨年度受験できなかった 4 年次生を対象に受験料大学負担で TOEIC® IP テストの一斉受験を実施する。また、受験率向上の取組として、連続セミナー「キャリア×グローバル～やっぱり英語力？～」を新たに企画、TV 会議システムを活用して両校地において 5 月から 13 回開催し、セミナー参加者数は延べ 540 名にのぼった。

【2016 年度連続セミナー「キャリア×グローバル～やっぱり英語力？～」開催実績】

回／日程	第 1 回 5 月 10 日（火）
演題	日英バイリンガルへの道
講師	清水美子氏（Centre for Translation Studies, University College London 講師）
回／日程	第 2 回 5 月 31 日（火）（今出川）、6 月 3 日（金）（京田辺）
演題	グローバル人材としての自分をデザインしよう！
講師	島田和憲氏（留学コーディネーター）
回／日程	第 3 回 6 月 13 日（月）
演題	企業研修担当者が語る TOEIC の重要性
講師	松名大輔氏（リロ・パナソニックエクセルインターナショナル株式会社研修開発グループ語学研修チーム主事）

回／日程	第4回 6月28日（火）
演題	グローバル化時代になぜ英語力が必要なのか
講師	鄭躍軍氏（国際センター所長／国際化推進室長）
回／日程	第5回 7月7日（木）
演題	グローバル採用の現状
講師	木田佳男氏（ライトハウス・キャリアエンカレッジ株式会社取締役）
回／日程	第6回 7月14日（木）
演題	留学それは…グローバル人財に向かって考えること～グローバル人材化×ASEAN 文化理解で就活を制する
講師	万浪靖司氏（株式会社地球の歩き方 T&E 代表取締役副社長）
回／日程	第7回 10月6日（木）
演題	真のグローバルで自分のキャリアを切り開く
講師	脇尊裕氏（株式会社アーク・スリー・インターナショナル代表取締役）
回／日程	第8回 10月13日（木）
演題	魅力的な人材とは
講師	森本大氏（デルタ航空会社日本支社長）
回／日程	第9回 10月20日（木）
演題	キャリア形成と戦略性と語学力
講師	清水習氏（政策学部助教）
回／日程	第10回 11月16日（水）
演題	グローバル化する世界で、今、求められる人材
講師	池上浩一氏（野村ホールディングス株式会社シニア・コミュニケーションズ・オフィサー）
回／日程	第11回 11月22日（火）
演題	会社で英語を使う時
講師	上田修三氏（キャリアコーディネーター）
回／日程	第12回 12月9日（金）
演題	Englishnization ～壮大なる実験とその成果
講師	高橋理人氏（楽天株式会社常務執行役員）
回／日程	第13回 12月13日（火）
演題	ブロンクスからアーモストに入学して、世界へ
講師	Omar Pineda Jr. 氏（Amherst Doshisha Fellow）

3-4. 各種語学対策講座及びセミナー

これまでキャリアセンターや学生支援センターが個別に実施していた各種語学対策講座やセミナーの運営を2014年度から国際課で集約、学生の利便性の向上だけではなく、各種講座やセミナーと正課科目及び既存の企画等との連携を模索する等、より効果的な広報や参加意欲の醸成と講座の提供に努めた。

【TOEIC® テスト対策講座開催実績（2016年度）】

春学期	今出川	京田辺
開講コース	Beginner コース (2 クラス) Intermediate コース (2 クラス) Advanced コース	Beginner コース Intermediate コース
開催日程	2016 年 5 月 6 日 (金) ～ 7 月 5 日 (火)、週 2 回	2016 年 5 月 9 日 (月) ～ 7 月 7 日 (木)、週 2 回
夏期休暇	今出川	京田辺
開講コース	Beginner コース Intermediate コース	開講なし
開催日程	2016 年 8 月 22 日 (月) ～ 8 月 26 日 (金)、毎日	開講なし
秋学期	今出川	京田辺
開講コース	Beginner コース Intermediate コース Advanced コース	Beginner コース
開催日程	2016 年 10 月 20 日 (木) ～ 12 月 26 日 (月)、週 2 回	2016 年 10 月 18 日 (火) ～ 12 月 20 日 (金)、週 2 回
春期休暇	今出川	京田辺
開講コース	Beginner コース Intermediate コース	Beginner コース Intermediate コース
開催日程	2017 年 2 月 20 日 (月) ～ 2 月 24 日 (金)、毎日	2017 年 2 月 20 日 (月) ～ 2 月 24 日 (金)、毎日

【TOEFL® テスト対策講座開催実績（2016年度）】

春学期	今出川	京田辺
開講コース	500 点コース / 550 点コース	500 点コース / 550 点コース
開催日程	2016 年 5 月 9 日 (月) ～ 7 月 4 日 (月)、週 2 回	2016 年 5 月 6 日 (金) ～ 7 月 1 日 (金)、週 2 回
夏期休暇	今出川	京田辺
開講コース	500 点コース / 550 点コース	500 点コース / 550 点コース
開催日程	2016 年 8 月 22 日 (月) ～ 8 月 25 日 (木)、毎日	2016 年 8 月 22 日 (月) ～ 8 月 25 日 (木)、毎日
秋学期	今出川	京田辺
開講コース	500 点コース / 550 点コース	500 点コース / 550 点コース
開催日程	2016 年 10 月 25 日 (火) ～ 12 月 27 日 (火)、週 2 回	2016 年 10 月 24 日 (月) ～ 12 月 26 日 (月)、週 2 回

春期休暇	今出川	京田辺
開講コース	550 点コース	550 点コース
開催日程	2017 年 2 月 27 日 (月) ～ 3 月 2 日 (木)、毎日	2017 年 2 月 27 日 (月) ～ 3 月 2 日 (木)、毎日

【IELTS™ テスト対策講座開催実績 (2016 年度)】

夏期休暇	今出川	京田辺
開催日程	2016 年 8 月 22 日 (月) ～ 8 月 26 日 (金)、毎日	2016 年 8 月 22 日 (月) ～ 8 月 26 日 (金)、毎日
春期休暇	今出川	京田辺
開催日程	2017 年 2 月 27 日 (月) ～ 3 月 3 日 (金)、毎日	2017 年 2 月 27 日 (月) ～ 3 月 3 日 (金)、毎日

【語学対策セミナー開催実績】

2013 年度	今出川	京田辺
TOEIC®600 点突破セミナー	12 月 14 日 (土)	12 月 22 日 (日)
TOEIC®730 点突破セミナー	12 月 15 日 (日)	12 月 21 日 (土)
2014 年度	今出川	京田辺
TOEIC® テスト説明会 ～今、英語力が求められる理由～	6 月 16 日 (月)	6 月 17 日 (火)
TOEIC® テスト対策セミナー	7 月 5 日 (土)	7 月 6 日 (日)
	11 月 1 日 (土)	10 月 25 日 (土)
2015 年度	今出川	京田辺
企業が求めるグローバル人材とは ～企業研修担当者が語る TOEIC® の重要性～	6 月 15 日 (月)	テレビ会議システムにより中継
2016 年度	今出川	京田辺
企業研修担当者が語る TOEIC® の重要性	6 月 13 日 (月)	テレビ会議システムにより中継

【その他のセミナー開催実績】

開催日程	演題 / 講師
2013 年 10 月 30 日 (水)	真の国際人の条件～求められる人間像について～
	坂田昌鴻氏 (オンライン英語スクール「株式会社アンフープ」戦略経営パートナー)
2014 年 9 月 24 日 (水)	「[UAE 現地報告] - アーモスト大学留学経験とともに - これからのグローバル人に必要なもの」
	加茂佳彦氏 (駐アラブ首長国連邦 (UAE) 特命全権大使)
2016 年 1 月 15 日 (金)	世界への扉と言葉の力～グローバル社会を生きるあなたへ～
	八木早希氏 (フリーキャスター)

4. 教育体制のグローバル化

4-1. 教員のグローバル教育力の養成

英語で授業を実施する英語を母語としない担当者のためにFD研修を継続して実施した。毎年度アンケート結果を踏まえて参加しやすい形を工夫し、新任教員を中心に参加を奨励し、各種会議を通じた周知徹底を行った。

【英語で授業をする教員のためのFD研修開催実績】

年度	開催日程	校地	参加者数
2013 年度	2014 年 2 月 20・21 日（木・金） 10:00～17:00	今出川	8 名
	2014 年 3 月 6・7 日（木・金） 10:00～17:00	京田辺	2 名
2014 年度	2015 年 2 月 20 日（金） 9:30～17:30	今出川	8 名
	2015 年 2 月 23 日（月） 9:30～17:30	今出川	2 名
2015 年度	2015 年 9 月 17 日（金） 9:30～17:30	今出川	5 名
	2016 年 2 月 25 日（月） 9:30～17:30	今出川	5 名
2016 年度	2017 年 2 月 24 日（金） 9:30～16:30	今出川	4 名

ワークショップのご案内

英語で効果的に教える方法

My English is not perfect.



But you'll learn a lot in my class.

英語にスムーズに移行するための4つのコツ

目的の明確化
しっかり設計する
ノンネイティブとしての心構え

授業の重要性を伝える
学生のやる気を育てる
教員の情熱を開示する

肯定的なフィードバック
参加型のレッスンにする
静かな学生に発言させる工夫

多様性の意味とメリット
学生の多様性に対応する
コミュニケーション・スタイル

特徴

- すぐに生かせる実践的アドバイス
- 多様な英語レベルに対応
- インタラクティブなワークショップ

教材

セミナー用オリジナル教材 + 「大学教員のための教室英語300」

講師

アルク教育社
グローバル人材開発コンサルタント
吉中 昌國

日時: 2017年2月24日(金) 9:30～16:30
会場: 今出川校地
定員: 8名まで
申込: 国際化推進室まで
ji-glb300@mail.doshisha.ac.jp
075-251-3300
※申込者が多い場合は調整させていただく場合があります。
申込締切: 2016年12月28日(水)
主催: 国際連携推進機構 国際化推進室

ノン・ネイティブ・スピーカーとしてできる工夫は？
日本人学生やアジア系留学生への配慮は？
この6時間のワークショップで共に考えましょう。

FD研修案内チラシ



FD研修の様子

また、学習支援・教育開発センターでは、英語での授業に関する情報共有のため授業デザイン研究会を組織した。授業評価アンケートをもとに、一般学生、外国人留学生から評価の高い講義をピックアップし、担当教員がその手法（授業への英語の取入れ方、外国人留学生との合同授業、英語による対話型授業、英語によるディスカッションや協同学習の方法）を他の教員と共有できる機会を提供しており、参加者からも好評を得ている。担当教員には、外国人教員も含まれる。その後、“Go Global” ポートフォリオを活用した授業デザイン研究会の参加者同志のコミュニティサイト構築へと発展している。

【授業デザイン研究会開催実績】

年度	開催日程
2014 年度	2014 年 12 月 12 日（金）18：20～20：00
2015 年度	2015 年 7 月 28 日（火）18：20～20：00



授業デザイン研究会案内チラシ

その他、学習支援・教育開発センターでは「教育開発調査活動費制度」を設け、学外のグローバル教育発展に関わる諸行事・研修会に参加する費用（参加費、旅費）を負担している。国際的なFD活動が「教育」から「学習支援」へとコンセプトの重心を移しているところから、海外の学習支援政策や指導プログラム及び指導者育成プログラムを常に調査している。

4-2. 外国人教員等の採用

グローバル教育力向上のために、採用に際しても、国際公募による競争的な環境での選考を行う等、外国人教員及び海外での教育・研究経験（学位の取得、大学での授業経験、在外研究等）を有する教員の比率を高めた。また、学部・研究科毎に定めている任期付教員の採用枠の内1名は外国人教員枠とすることを奨励し、グローバル・コミュニケーション学部とグローバル地域文化学部では主として全学の外国語教育を担当する任期付教員は、全員、担当する外国語を母語とする外国人教員を採用した。外国人教員の受入のために、出講案内（授業時間割、台風等の場合の措置、情報処理危機操作、試験、評価基準、緊急連絡先、給与、ハラスメント等について記載）、Web 学修支援システム（シラバス入稿や採点入力）、関連学内諸規定の英文化に加えて、2013 年度に「英語によるFDハンドブック」（教育理念、シラバス編成方針、成績評価情報等）を発行し、大学 HP 上で公開している。

新規採用以外でも、在外研究員制度により毎年約 20 名の教員が海外での研究専念時間を確保している。また、海外の学術協定大学との教員交換の制度も整えている。長期としては、アーモスト大学への交換教員派遣、ケンブリッジ大学クレア・ホール校への Visiting Fellowship 派遣、チュービンゲン大学の若手研究者に向けた教職経験プログラム等があり、短期の交換教員派遣先としては、アーモスト大学、北京大学歴史学部、復旦大学、延世大学神学部、フランス社会科学高等研究院（EHESS）がある。

【外国人教員等の在籍者数の推移】

年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
外国人教員等	392 名	399 名	405 名	409 名	419 名
(内、外国人教員)	61 名	64 名	70 名	74 名	80 名
総教員数	778 名	777 名	785 名	797 名	811 名

4－3. Doshisha Global Archives の活用

2013 年 5 月に開館した「Doshisha Global Archives」では、本学に留学拠点を置く SAP センターが所蔵する英語の図書を配架し、当該センター所属の外国人留学生だけではなく日本人学生の利用にも供しており、異文化間の交流ができる新たな空間となった。2015 年 6 月には本学政策学部と KCJS の合同ゼミを実施する等、正課・正課外を問わず活用されている。2016 年 9 月には、「Doshisha Global Archives」設置の英語の図書約 7,000 冊を本学に寄贈いただき、本学図書館システム（DOORS）に書誌所蔵データを登録し、本学学生や教職員の利用環境を向上させた。2017 年 7 月には、AKP からの約 2,000 冊の寄贈図書（英語）の公開も予定しており、一層充実した蔵書内容となる。「Doshisha Global Archives」は今出川キャンパスのほぼ中央に位置すること、広い閲覧室は共同授業やラウンジとしての利用が見込めること、英語の図서가コンパクトに閲覧できること等により、多目的な利用が可能となっており、序々に外国人留学生や日本人学生及び英語教員の利用が増えている。



Doshisha Global Archives内の様子

5. 日本人学生の留学を促進するための環境整備

5-1. “Go Global” ポートフォリオの活用

将来、グローバルに活躍することを目指す学生の大学での学びをサポートする Web システムとして 2013 年度に “Go Global” ポートフォリオを導入した。これは、学生の語学スコアや留学履歴、授業の課題や報告書等、目標や学習成果を自身で蓄積していくことができるシステムとなっており、グローバル社会における自身のキャリアを見据えた目標を設定した上で、その目標を達成するために取り組んだことや経験したことを随時記録していくことで、客観的に目標に対する進捗状況を確認することができる。また、各種留学プログラムの募集要項や留学先となる協定校の情報、実際に留学した学生の報告書やアンケート結果等をポートフォリオに集約し、留学前の情報収集の段階から留学への申請、留学中の各種書類や留学後の報告書の提出までを本システムで一元管理できるようにした。それにより、留学の入口から出口までを一つのシステムで管理することが可能となり、利用学生にとって利便性の高いシステムとなっている。

また、2015 年度から、2013 年度以降の学部新入生を対象に、「Doshisha “Go Global” Passport」の発行を開始した。「Doshisha “Go Global” Passport」とは、グローバル人材として所定の条件を満たした学生に授与されるもので、グローバルな視点で活躍するために必要な基礎知識、外国語能力、実践力が一定の条件を満たした証となる。また、“Go Global” ポートフォリオを通じて所定の手続きを経て認定を受けた学生には、成績証明書に「Doshisha “Go Global” Passport」取得者であることが記載される。

【Doshisha “Go Global” Passport の授与条件】

次のⅠまたはⅡのいずれかを満たした者に「Doshisha “Go Global” Passport」を授与する。

- Ⅰ. 次の①から④のいずれかを満たし、⑤及び⑥の全てを満たした者。
- ① TOEFL iBT® TEST 79 点 以上、TOEFL ITP® TEST 550 点 以上、TOEIC® Listening & Reading 公開テスト 730 点以上、TOEIC® Listening & Reading IP テスト 730 点以上、または別表に定めるこれらと同等のスコア・資格のいずれかを有すること。
 - ② 「Intensive Courses for TOEFL (Practice)」 「Intensive Courses for TOEFL (Tutorial)」 2 科目の単位を修得すること。
 - ③ 初修外国語について、別表に定める資格・スコアのいずれかを有すること。
 - ④ 本学が実施する留学プログラムに参加し、所定の評価等を得ていること。
 - ⑤ 「建学の精神とキリスト教」「キリスト教と人間 1」「キリスト教と人間 2」「キリスト教とは何か 1」「キリスト教とは何か 2」のうちのどれか 1 科目の単位を修得すること。
 - ⑥ 「日本近現代史」「世界近現代史」「世界の宗教」「国際教養基礎論 1」「国際教養基礎論 2」のうち 2 科目の単位を修得すること。
- Ⅱ. グローバル・リベラルアーツ副専攻を修了した者。

【Doshisha “Go Global” Passport の授与者推移】

申請時期	申請者数	認定者数
2015 年度秋学期	79 名	66 名
2016 年度春学期	23 名	22 名
2016 年度秋学期	104 名	91 名

5-2. ラーニング・コモンズの活用

今出川キャンパスのラーニング・コモンズは日本最大級の学習空間であり、その特徴は「視認性」の高さにある。学生が互いに何を学習しているのか、どのような学習方法を展開しているのかが分かる「相互刺激性」のある空間である。学習コミュニティを醸成していくための工夫を凝らした空間となっており、外国人留学生との交流を含めて、集まった学生が議論を深め、課題を協同でこなすアクティブ・ラーニングの展開が見受けられる。

2階入口付近に位置するグローバルビレッジは、大きな画面で海外放送（世界約170局）を見ながら情報交換できるスペースとなっている。外国人留学生や留学アシスタントを相手に気軽に英語で語り合い、留学コーディネーターに留学相談をする等、学生は自分の学びに合った利用を行っている。

海外の大学との交流行事等もラーニング・コモンズで開催し、飛び入り参加できることから留学への動機付け向上に結びついている。外務省が進める国際交流事業「カケハシ・プロジェクト」の一環として、2015年度にコロンビア大学の学生49名が本学を訪問しラーニング・コモンズで本学学生47名と交流、小グループでのディスカッションでは多岐にわたるテーマについて情報交換した。ラーニング・コモンズの行事の「コモンズ・カフェ」では外国人教員あるいは留学経験を有する教員の留学体験談や海外での学び、生活方法等についてトーク会を開催する等、日常的に「グローバル」に触れる環境が創出されている。

3階中央部のアカデミックサポートエリアでは、常駐するアカデミック・インストラクター（教員）やラーニング・アシスタント（大学院生）が資料の見つけ方から発想法、プレゼンテーションまで相談しながらサポートしており、学生は実践的なスキルを身につけることができる。アカデミック・ライティングの基礎講習会を海外留学に向かう学生グループ対象に開催し、アクティブ・ラーニングの手法を使って技術面及び倫理面での指導を行っている。また、留学時に必要な学習スキル・メソッド（リサーチにおけるマネジメント手法、剽窃引用、ソーシャルメディアの研究利用等）について海外大学で調査を行い、ラーニング・コモンズの「アカデミックスキルセミナー」のプログラムの改訂や新規開発を行った。



コモンズ・カフェの様子



ラーニング・コモンズでの自学自習

今出川キャンパスでの学習効果に鑑み、京田辺校地のラーニング・コモンズの開設を2018年度に予定している。理系・文理融合系学部中心のキャンパスであるという特性を考慮し、言語習得を支援する仕掛けも含めて、アクティブ・ラーニングを呼び込み、外国人留学生との交流を深め、グローバル社会の感覚を養うことを目的とした空間を加味した学習環境デザインを予定している。

5-3. 留学情報のワンストップサービス

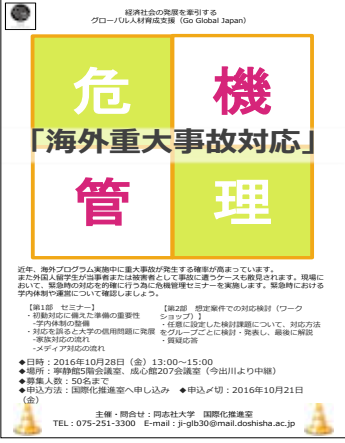
留学関連情報の収集等は国際課が担っているが、学生の利便性向上のため2014年度からラーニング・コモンズ2階に位置するグローバルビレッジに留学コーディネーターと留学アシスタントを配置した。留学コーディネーターには企業出身の海外経験豊富な人材を雇用し、留学アシスタントは交換留学中の外国人留学生から募集・雇用し、留学生コーディネーターの管理・運営の下、国際課が収集した留学情報やノウハウを活かした情報提供を行い、帰国後の単位認定や就職支援までの一連の情報も所管部課より入手し、必要に応じて学部と連携する等、適切な助言や支援を充実させ、メンタル面から就職までのワンストップサービス機能を強化した。

5-4. 危機管理とその体制整備

学生を海外に送り出すに当たり、危機管理の徹底は大学の責務である。近年の欧米を中心に起こっているテロ事件や銃撃事件は遭遇する可能性が低いとはいえ、遭遇した場合には大きな被害となり、大学としての対応を社会は注視するため、本学では、危機を想定して未然の防止と事故対応について徹底した見直しを行っている。2016年度はGGJ最終年度であることと海外プログラム実施中に重大事故が発生する可能性が高まっていることから、学外の危機管理に関するセミナーへの積極的な参加に加え、本学においてもセミナー開催を行った。

【危機管理に関するセミナーの開催実績】

開催日程	セミナー名	参加者数
2016年10月28日	危機管理セミナー（日本アイラック）	53名
2016年11月7日	第55回JCSOS定例セミナー（関西）（会場校）	58名 （うち本学20名）



経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成を推進 (Grip Global Japan)

危機管理

「海外重大事故対応」

近年、海外プログラム実施中に重大事故が発生する確率が高まっています。また外国人留学生が被害者または加害者として海外に巻き込まれる危険性も懸念されます。現場において、緊急時の対応を的確に行うために危機管理セミナーを実施します。緊急時における対応体制や準備について確認しましょう。

【第1部 セミナー】
・事前対応に備える準備の重要性
・学内体制の整備
・対応を要する大学との役割分担に発展
・事故対応の役割
・メディア対応の役割

【第2部 想定案件での対応検討（ワークショップ）】
・実際に発生した検討課題について、対応方法をグループごとに検討・発表し、最後に解説・質疑応答

●日時：2016年10月28日（金）13:00～15:00
●場所：孝静館5階会議室、成心館207会議室（今出川より中継）
●参加人数：50名まで
●申込方法：国際化推進室へ申し込み ●申込〆切：2016年10月21日（金）

主催・協賛：同志社大学、国際化推進室
TEL: 075-251-3300 E-mail: j-glob30@mail.doshisha.ac.jp



第55回JCSOS定例セミナー（関西）
留学生の安全確保と
官民協力体制構築に向けて

第55回JCSOS定例セミナーは文部科学省、外務省の共同主催で開催します。本学にて開催いたします。参加は無料ですが事前登録が必要です。本学所属のみの参加者は全員参加することが可能です。ぜひこの機会にご参加ください！

●プログラム●
13:30 受付開始
14:00-14:10 開会式
14:10-15:10 「外務省の安全対策と大使館・領事館について」
司会：松本浩
15:10-15:20 休憩
15:20-15:40 講演 「大学の国際化と危機管理」
講演：中島正
15:40-16:20 「留学生の安全確保と官民協力体制について」
講演：藤田 孝一
（JCSO理事長）
16:30-16:35 休憩
16:35-17:00 質疑応答
17:00 閉会のあいさつ

2016年11月7日（月）14:00～17:00
明徳館1階教室/新館1階 国際交流ラウンジ（今出川より中継）

参加をご希望の方は、
2016年10月21日（金）11:30までに
国際化推進室までメールにてご連絡ください
j-glob30@mail.doshisha.ac.jp

主催・協賛：特定非営利活動法人 海外留学生安全対策協議会（JCOSO）
主幹・事務局：同志社大学 国際化推進室
協力：文部科学省教育政策国際化推進室
研究開発推進室 JAPSA（国際教育文化協議会）

危機管理セミナー案内チラシ

学部学生が本学のプログラムで海外へ渡航する場合、出発前に事前オリエンテーションを実施しており、外務省「たびレジ」への登録や在留届の提出について案内すると共に、危機管理のビデオ視聴や注意点について周知し、本学作成の海外渡航ハンドブックを配付する。本学は、学外の危機管理機関（「海外留学生安全対策協議会 JCSOS」及び「日本エマージェンシーアシスタント株式会社 OSSMA」）と契約し、学生の危機管理対応に大学として備えると共に、学生個人には期間の長短を問わず、海外旅行保険の加入を義務づけている。

大学全体としても危機管理マニュアル「学生の海外渡航における危機管理について」を策定しており、大学 HP の教職員のページで公開している。



海外渡航ハンドブック

6. 西日本第1ブロックの活動

GGJ 推進に当たって、採択大学間の連携体制及び連携活動を構築することになった。

本学は、西日本第1ブロックの幹事校となり、副幹事校である関西学院大学や神戸大学と協力してブロック運営を行った。幹事校会議に出席しブロック大学と情報共有する、ブロック別イベントの企画及び計画策定や共通課題の検討等を行う、そして全国幹事校会議への議題整理や提案等を主として担い、ブロック運営や予算管理に関する事務局を担当した。

西日本第1ブロックは、各大学の取組成果を広く社会に周知するために毎年度共同シンポジウムを開催したが、9大学の所在地を念頭に、地域的偏りをなくし満遍なく開催大学を選定、5年間に亘り広く西日本第1ブロック全体での活動が実現できた。

【西日本第1ブロックの大学】

幹事校	同志社大学（タイプA：全学推進型、以下A）
副幹事校	関西学院大学（A）、神戸大学（タイプB：特色型、以下B）
加盟校	福井大学（B）、鳥取大学（B）、愛知県立大学（B）、愛知大学（B）、京都産業大学（B）、立命館大学（B）

【Go Global Japan Expo 開催実績】

GGJ 採択大学の全国的事業として、高校生、保護者、高校関係者を主な対象に、参加大学や協力・協賛団体のグローバル化の取組を講演、ブース出展、プレゼンテーション等の多彩なイベントで紹介し、GGJにおける取組を広く社会に発信し成果を共有した。

年度	開催日程	テーマ	開催場所	参加者数
2013年度	2013年 12月15日(日)	目指せ！世界にはばたくグローバル人材！ ～進学・留学・キャリアを考える～	早稲田大学早稲田 キャンパス	4,100名
2014年度	2014年 12月21日(日)	自分、ミライ発見！	関西学院大学西宮 上ヶ原キャンパス	5,374名
2015年度	2015年 12月20日(日)	未来を切り拓くグローバル人材を目指して ～進学・留学を考える～	明治大学駿河台 キャンパス	3,931名
2016年度 東日本第1	2016年 12月11日(日)	大学の『グローバル』を見てみよう！	東北大学片平キャンパス	133名
2016年度 東日本第2	2016年 11月23日(水)	関東の18大学が集結します！	早稲田大学国際会議場	705名
2016年度 西日本第1	2016年 12月11日(日)	世界に向かってLet's Try！	鳥取大学鳥取キャンパス	278名

2016 年度 西日本第 2	2016 年 12 月 11 日(日)	グローバルパイオニアシンポ ジウム in 北九州	北九州市立大学北 方キャンパス	489 名
-------------------	------------------------	-----------------------------	--------------------	-------

※ 2016 年度 Expo は地元高校生がより参加をしやすい取組を目指してブロック毎に開催。

※西日本第 1 ブロックは、共同シンポジウムと同時開催。

【西日本第 1 ブロック共同シンポジウム開催実績】

年度	開催日程	テーマ	開催場所	参加者数
2013 年度	2013 年 11 月 23 日(土)	「グローバル」の普遍性について	同志社大学今出川 キャンパス	264 名
2014 年度	2014 年 11 月 15 日(土)	大学が育成するグローバル人材とは	神戸大学百年記念 館	245 名
2015 年度	2015 年 11 月 14 日(土)	地域に根ざしたグローバル人材とは	愛知大学名古屋 キャンパス	250 名
2016 年度	2016 年 12 月 11 日(日)	グローバル社会の進展と大学 教育	鳥取大学鳥取キャンパス	278 名

※ 2016 年度は Go Global Japan Expo と同時開催。

【全国幹事校会議開催実績】

各ブロックの幹事校と副幹事校及び文部科学省が出席する会議で、GGJ の目的を鑑み目標達成に向けて、取組方針、成果の発信や今後の検討課題を議論する。具体的には GGJ Expo の企画や各採択校の活動状況を共有し全体的な課題解決の方向を示す。

年度	回	開催日程	場所
2012 年度	採択大学 連絡会	2012 年 12 月 6 日 (木)	学術総合センター一橋講堂
2013 年度	第 1 回	2013 年 5 月 20 日 (月)	立命館大学東京キャンパス
	第 2 回	2014 年 3 月 24 日 (月)	立命館大学東京キャンパス
2014 年度	第 1 回	2014 年 5 月 19 日 (月)	立命館大学東京キャンパス
	第 2 回	2015 年 3 月 6 日 (金)	立命館大学東京キャンパス
2015 年度	第 1 回	2015 年 5 月 18 日 (月)	立命館大学東京キャンパス
	第 2 回	2016 年 3 月 22 日 (火)	早稲田大学大隈会館
2016 年度	第 1 回	2016 年 7 月 7 日 (木)	立命館大学東京キャンパス
	第 2 回	2017 年 3 月 13 日 (月)	立命館大学東京キャンパス

【西日本第1ブロック会議開催実績】

西日本第1ブロックの運営事項を審議する。主な議題は共同シンポジウムの企画等、その他ブロック内における課題や情報共有も行う。

年度	回	開催日程	場所
2012 年度	幹事校会議	2013 年 2 月 20 日(水)	同志社大学大阪サテライトオフィス
	第 1 回	2013 年 3 月 4 日(月)	同志社大学寧静館会議室
2013 年度	第 1 回	2013 年 11 月 23 日(土)	同志社大学寧静館会議室
	第 2 回	2014 年 3 月 12 日(水)	同志社大学至誠館会議室
2014 年度	第 1 回	2014 年 6 月 6 日(金)	神戸大学インテリジェントラボラトリ
	第 2 回	2014 年 11 月 15 日(土)	神戸大学百年記念館
	第 3 回	2015 年 3 月 7 日(土)	同志社大学寒梅館大会議室
2015 年度	第 1 回	2015 年 6 月 17 日(水)	同志社大学寧静館会議室
	第 2 回	2015 年 11 月 14 日(土)	愛知大学名古屋校舎
	第 3 回	2016 年 3 月 5 日(土)	同志社大学扶桑館 103 教室
2016 年度	第 1 回	2016 年 6 月 20 日(月)	同志社大学寧静館会議室
	第 2 回	2016 年 12 月 11 日(日)	鳥取大学鳥取キャンパス

【事務担当者打合せ会議開催実績】

幹事校の事務担当者によりブロック会議の議題整理及び事前準備について打合せを行う。

年度	回	開催日程	場所
2012 年度	第 1 回	2013 年 2 月 12 日(火)	同志社大学大阪サテライトオフィス
2013 年度	第 1 回	2013 年 7 月 31 日(水)	関西学院大学大阪梅田キャンパス
	第 2 回	2014 年 1 月 21 日(火)	関西学院大学大阪梅田キャンパス
2014 年度	第 1 回	2014 年 5 月 23 日(金)	神戸大学インテリジェントラボラトリ
	第 2 回	2014 年 10 月 28 日(火)	神戸大学百年記念館
	第 3 回	2015 年 2 月 24 日(火)	関西学院大学大阪梅田キャンパス
2015 年度	第 1 回	2015 年 6 月 2 日(火)	愛知大学名古屋校舎
	第 2 回	2016 年 2 月 18 日(木)	神戸大学インテリジェントラボラトリ
2016 年度	第 1 回	2016 年 6 月 8 日(水)	鳥取大学鳥取キャンパス

【事務担当者連絡会開催実績】

9 大学の事務担当者による情報交換の場として、大学個別の問題・課題の共有と解決策についての意見交換等を行う。

年度	回	開催日程	場所
2014 年度	第 1 回	2014 年 8 月 7 日(木)	同志社大学至誠館会議室
2015 年度	第 1 回	2015 年 7 月 10 日(金)	愛知県立大学長久手キャンパス
2016 年度	第 1 回	2016 年 11 月 4 日(金)	福井大学文京キャンパス

Ⅲ 今後の展開

本事業は、本学が目指すグローバル人材である、高度な外国語運用能力を基礎的資質としつつも、良心に基づいて、自らの責任で行動できる、「良心を手腕に運用する」「考動する」人材の輩出を目的とするものである。有機的に連携した2つの教育プログラムとして、留学を含む教育実践取組の「留学型」と、国内にしながらグローバル人材と成り得る教育を実践する取組の「国内型」を設定し、最終年度には「留学型」1,800名、「国内型」1,200名のグローバル人材を育成できるよう、リベラル・アーツを基盤とした教育等の様々な取組を行ってきた。その成果として、外国語力スタンダードを満たす学生数、単位取得を伴う海外留学経験者数は共に飛躍的に増加し、本学が目指すグローバル人材の育成に向けた足掛かりを掴むことができた。

事業終了後においてもこれに留まることなく、取組内容の見直しを行いつつ更なるグローバル人材の育成を推進する。「同志社大学ビジョン2025」（2016年11月10日大学評議会決定）においては、「留学型」である海外で学びの経験を持つ学生の比率を、全学生の14%から2025年度には30%に増やすことを目標とし、多文化理解力と外国語運用力を備えた人材の育成と送出しを促進するための支援事業を更に強化することを表明している。

全学共通の「留学型」プログラムは、これまでグローバル人材育成留学促進部会を中心に継続した見直しや検討がなされており、事業終了後も部会とは別の新たな枠組や検討母体において留学希望者の多様なニーズに応えるプログラムのあり方と提供について検討を進めていく。また、大学間協定に基づく「交換留学」については、今後も一定の割合で学生交換協定を含む協定校の拡充を図り、派遣枠の拡大と充実に取り組む。同時に、学部独自の専門型留学プログラムは、実施していない学部に働きかけ、全学部でのプログラム提供を目指す。

その他、高度な英語力養成に向けたTOEFL®対策集中コースである正課科目「Intensive Courses for TOEFL (I.C.T.)」は、2016年度春学期末に行った学生向けアンケート調査において、授業内容、カリキュラム、授業のレベル設定等において概ね非常に満足度の高い評価を得ている。「I.C.T.」の更なる充実に加えTOEFL®受験のための正課外の対策講座も活用し、本事業の着実な取組実績を継承しながら、英語を実践的・継続的に学ぶ教育環境を整え、受講者数の拡大を図る。

本事業の採択により、留学促進の一助とすべく充実させてきた奨学金制度は、派遣留学、セメスタープログラム、36に及ぶ短期プログラムや学部が専門教育に応じて独自で企画・提供するプログラム等多岐にわたっている。本事業は終了となるが、その間新設した留学プログラムの定着には当面支援が必要であるため、各留学プログラムへの影響を考慮しつつ2017年度より奨学金の再編を行う。新たに発足する奨学金制度については、派遣留学者数の動向を検証しながら限られた財源の中でより一層有効な支援が提供できるよう制度を検証することが課題の一つである。

更に今後重点的に取り組むべき課題として、2017年度から新設するドイツ、テュービンゲン大学内の「同志社大学テュービンゲン EU キャンパス」の整備と機能強化が挙げられる。具体的な目標として、EU キャンパスに本学学生を送って正規教育プログラム及び共同授業を現地で展開する。本学にセンターを置くテュービンゲン大学からの学生との共修環境において留学

事前事後学修の機会を提供し、学生は当該センターが提供する科目を本学で履修後その発展科目を現地で履修する等、EU キャンパスと本学の間を往還しあう教育プログラムの構築を目指す。これにより、従来の形態とは異なる、海外拠点やキャンパスを活用した教育プログラムの履修環境の実現と、本事業の目的である、価値観や世界観の違いを超えて他者や異文化を理解し協働できる真の国際人の養成の更なる推進が期待できる。

〈参考資料1〉

事業採択後の歩み

年度	月	整備した組織・制度など	開催したシンポジウム、セミナーなど
2012(H24)年度	9月	「グローバル人材育成推進事業」*採択 *2015年度より「経済社会を牽引するグローバル人材育成事業(Go Global Japan)」	
	11月		SDワークショップ「大学職員のグローバル化」開催
	12月	留学支援のために英語で対応可能な留学コーディネーターを雇用	
	1月	「海外活動を伴う正課科目履修者に対する奨学金」制定 「海外活動を伴う正課科目引率に対する旅費補助に関する申合わせ」制定	
	2月		英語で授業を実施する教員のためのFD研修開催
	3月	国際センターFacebook開設	
2013(H25)年度	4月	グローバル地域文化学部開設 今出川キャンパス良心館に「ラーニング・コモンズ」開設 「“Go Global”ポートフォリオ」公開 留学コーディネーターをラーニング・コモンズに配置	
	5月	「Doshisha Global Archives」開館	「欧州留学フェア」共催
	6月	留学コーディネーターの補助スタッフとして留学生による「留学アシスタント」や「“GGJ” Conversation Partner」を配置	「グローバルキャリアフェア」開催(約1ヶ月間) 第1回早稲田大学・同志社大学共同SDワークショップ開催
	8月		ナンバリング作業説明会開催
	10月	国際交流行事を企画運営する「SIED」発足	セミナー「真の国際人の条件～求められる人間像について～」開催
	11月		西日本第1ブロック共同シンポジウム「「グローバル」の普遍性について」開催 家元による「Iemoto Lectures」を東京にて開催(～2月全4回)
	12月		GGJ Expo 2013「目指せ！世界にはばたくグローバル人材！」開催(於：早稲田大学)
	2月		英語で授業を実施する教員のためのFD研修(今出川)開催
	3月		英語で授業を実施する教員のためのFD研修(京田辺)開催
	4月	「日本近現代史」「世界近現代史」「世界の宗教」を設置 海外インターンシップ科目を設置 長期留学プログラムのWeb出願システムによる受付開始	
	5月		「欧州留学フェア」共催
	6月		「グローバルキャリアフェア」開催(約1ヶ月間)
	9月		「[UAE現地報告]ーアーモスト大学留学経験とともにーこれからのグローバル人に必要なもの」開催
2014(H26)年度	11月		第2回早稲田大学・同志社大学共同SDワークショップ開催 西日本第1ブロック共同シンポジウム「大学が育成するグローバル人材とは」開催(於：神戸大学)
	12月		GGJ Expo 2014「自分、ミライ発見！」開催(於：関西学院大学)
	2月		英語で授業を実施する教員のためのFD研修開催
2015(H27)年度	4月	国際連携推進機構再編 学部「科目ナンバリング」大学HPにて公開	
	5月		「欧州留学フェア」共催
	6月		「グローバルキャリアフェア」開催(約1ヶ月間)
	7月		第3回早稲田大学・同志社大学共同SDワークショップ開催
	9月		英語で授業を実施する教員のためのFD研修
	11月	「Doshisha “Go Global” Passport」発行	西日本第1ブロック共同シンポジウム「地域に根ざしたグローバル人材とは」開催(於：愛知大学)
	12月	短期留学プログラムのWeb出願システムによる受付開始	GGJ Expo 2015「未来を切り拓くグローバル人材を目指して」開催(於：明治大学)
	1月		客員教授講演会「世界への扉と言葉の力～グローバル社会を生きるあなたへ～」開催 カケハシプロジェクト「1-day Exchange Program」開催
	2月		英語で授業を実施する教員のためのFD研修開催

年度	月	整備した組織・制度など	開催したシンポジウム、セミナーなど
2016(H28)年度	4月	グローバル教育センター開設	
		グローバル・リベラルアーツ副専攻設置	
		大学院「科目ナンバリング」大学HPにて公開	
		海外フィールドワーク科目を設置	
	5月		連続セミナー「キャリア×グローバル～やっぱり英語力～」開催(～12月、全13回)
	6月	「Doshisha “Go Global ” Passport」発行	「グローバルキャリアフェア」開催(約1ヶ月間)
	9月	「Doshisha Global Archives」所蔵資料のDOORS公開	第4回早稲田大学・同志社大学共同SDワークショップ開催
			職員対象「Global English研修」開催
	10月		「Campus France」共催
			「危機管理セミナー」開催
	11月	「Doshisha “Go Global ” Passport」発行	「JCSOS定例セミナー」共催
	12月		GGJ Expo 2016(西日本ブロック)「世界に向かってLet's Try」開催(於:鳥取大学)
			西日本第1ブロック共同シンポジウム「グローバル社会と大学教育」開催(於:鳥取大学)
	2月		英語で授業を実施する教員のためのFD研修

〈参考資料 2〉

スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援
中間評価結果

大 学 名	同志社大学
申請区分	タイプ A：全学推進型

◇経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本事業は、最終年度において留学を含む教育実践取組による「留学型」1,800名、国内にしながらグローバル人材と成り得る教育を実践する取組による「国内型」1,200名のグローバル人材育成を目指す取組であり、概ね順調に展開されていると判断できる。 特に、学生の主体的な学習が重視されるグローバル人材育成において、「“Go Global”ポートフォリオ」の導入は適切なものであり、また大学にアウトカムの明示が求められることについては、「Doshisha “Go Global” Passport」がそれに対応し、公式な成績証明書にも記載されるなど、一つのモデルになる施策と思われる。有効に活用し、その成果を公表することを期待する。 また、英語力の向上については、「Intensive Courses for TOEFL」（I.C.T.）のクラスの総定員数を平成25年度から平成26年度に倍増させ、正課外の TOEFL 対策講座のクラス数も増設するなど、学生のニーズを正しく把握し対応がなされていることも評価できる。 しかしながら、これらの施策は開始されて間もないものも多く、まだ十分に結果に反映されていないところも見受けられる。英語力の向上のみならず、グローバル化に対応する教養やスキルを十分に学ぶことができるように、学びの場として設置されているラーニング・コモンズを有効に活用し、個人の主体的な学びに応えるサポートスタッフの増強や学生同士が学び合う環境作りについて更なる努力が必要である。	

経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援

Type A
Go Global Japan Project

同志社大学(学部入学定員:6,035人(平成27(2015)年度))

【構想の目的・育成するグローバル人材像】

同志社大学は、建学の精神である「良心教育」を実現するため、教育理念として「キリスト教主義」、「自由主義」並びに「国際主義」を掲げている。本構想は、高度な外国語運用能力を基礎的資質としつつも、キリスト教の徳育に基づき、自由でのびやかな進取の気性に溢れ、「良心を手腕に運用する」ことのできる、「考動する」グローバル人材(Global Competenceを有する人材)を輩出することを目的とする。

【構想の概要】

本構想では、有機的に連携した2つの教育プログラムである、留学を含む教育実践取組の「留学型」と、国内にいながらグローバル人材と成り得る教育を実践する取組の「国内型」を設定する。これによって、最終年度には「留学型」1,800名、「国内型」1,200名のグローバル人材を育成できる環境・プログラムを創出し、リベラル・アーツ教育を基盤とした教育等の取組の実施によって国内大学のグローバル化を牽引する。

■ 教育課程の国際通用性の向上

○ 教育課程の国際通用性の向上のための取組

ラーニング・コモンズにおいてアカデミック・インストラクターやラーニング・アシスタントによる学習支援を継続して行った。海外大学での視察を活かし、学生が留学先での学習法を先取り体験できるよう提供プログラム内容を再考し、改善した。また、ナンバリングは学部及び大学院で完了し、大学ホームページで公開しており、留学やダブルディグリーを検討する際に参照されている。

○ 戦略的な国内外への教育情報の発信

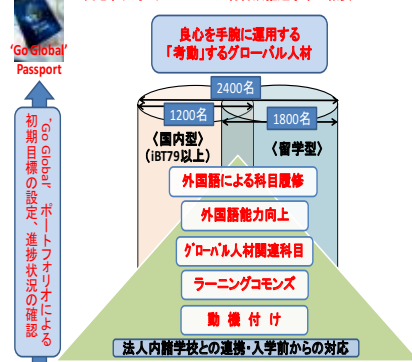
本事業の取組内容や成果等について、本学ホームページ(英語・ハングル・繁体字・簡体字での掲載を含む)やFacebook及び国際センター独自FacebookやLINEを通じた発信、取組紹介パンフレット等の作成、また雑誌等への広告掲載、採択大学共同での各種広報活動を継続して行った。様々な機会において、学長や副学長より積極的に本事業取組に対するメッセージ発信や講演等を行う等、全学での協力体制を強化した。

○ 事務体制のグローバル化

内定者の入社前研修や語学資格試験受験料補助制度に加え、新たにe-learningによる英語学習サービスの提供を開始した。また、多様な英語による業務に対応できるよう、グローバルマインド研修や職場で役立つ英語コミュニケーション研修等を継続して実施した。



同志社大学 グローバル人材育成推進事業の概要



■ グローバル人材として求められる能力の育成

○ 英語による教養教育

これまでの取組を継続して行い、平成28年度に新たに開設するグローバル教育センターの設置準備を行った。少人数クラスかつ留学生との共修環境の中で外国語によって提供される科目群を学ぶことで、日本人学生に対してはグローバルな視点からの日本社会・文化の理解と国際的教養の涵養を、外国人留学生には日本理解を促進することを目的としている。また、培った外国語能力と教養教育科目での学びを発展させる場として、グローバル・リベラルアーツ副専攻を同時に設置、国際教養を英語で学ぶ海外フィールドワーク科目も開発した。平成28年度のスタートを前に、学生向けの説明会を複数回実施し、多くの学生の参加があった。

■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

○ 入試における中等教育段階までの外国語力・留学経験等の適切な評価

一般入試の「英語」では、読解力と思考力を中心とした総合的な英語運用能力を試している。本学の英語問題の特色は長文読解であり、高校卒業レベルの英語運用能力だけではなく、大学において専門性や教養を養う基礎となる論理的思考力も同時に求めている。

○ 効果的な語学教育及び教育体制

プレシメントテストに語学能力試験CASECを利用し、全学統一方式による英語の習熟度別クラス編成を11学部にて実施。同テストを春、秋の学期末にも受験させることで、英語力を分析的に把握することができ、授業運営へ活かした。グローバル教育センターの設置を受け、同志社英語集中プログラムの策定を行った。英語によるアカデミックスキルの修得を目的とし、グローバル・リベラルアーツ副専攻や海外留学への実現へと繋げる。昨年度より行っているTOEICやTOEFLの対策講座に加え、IELTSの対策講座を新たに開講する等、一層の充実を図った。また今年度より、全学部の3年次生を対象に、TOEIC IP®テスト一斉受験を実施し、学生の語学力把握に努めた。

■ 教員のグローバル教育力の向上

○ 教育体制のグローバル化

本事業により新規に設けられたDoshisha Global Archivesにて本学に拠点を置く海外大学との合同授業を実施するなど、一層の共修環境の創出と実践を図った。また、所蔵している図書7,000件を大学の図書検索システムからも検索できるよう、準備を進めた。

○ グローバル教育力向上のための取組

平成24年度より実施している「英語で授業を実施する教員のためのFD研修」を継続して実施した。

■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

○ 動機付けや留学を促進するための取組

ラーニング・コモンズにおいて留学コーディネーターや留学アシスタントによる相談を継続して行い、相談件数は1,600件を超えた。国際センターの学生組織SIEDによる活動は3年目を迎え、多くの学生が外国人留学生との異文化交流により、留学意欲に目覚めたり、語学能力の重要性を自覚したりする等効果をあげている。本学の留学プログラムの紹介や留学までのロードマップについてまとめた冊子を作成し、本学学生のみならず、新入生向けに入学前にも配布する等、留学促進に向けた取り組みの強化を行った。

○ 留学中から帰国後にわたるサポート体制

留学中の安全面の啓発や留意すべき点をまとめた学生向けハンドブックを作成し、配布した。イラストを多用したり、携帯しやすいサイズにする等工夫を行い、危機管理体制を強化した。また、将来国際的に活躍したいと考える学生に対し、グローバルキャリアフェアを1ヶ月に渡り実施した。グローバルに活躍する本学OB・OGによる講演会や国際業務に携わっている企業の若手職員によるパネルディスカッション等を行い、延べ866名の参加があった。6月と1月には、英語による合同企業セミナーEnglish Career Fairを行い、高い語学力を持つ学生がより具体的にキャリア形成を行えるよう支援した。



SIEDによるイベントの様子

＜参考＞

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力

同志社大学が目指すグローバル人材とは、良心に基づいて、自らの責任で思考し、行動できる、「良心を手腕に運用する」「考動する」人材である。卒業時まで学生が修得すべき具体的能力としては、① TOEFL-iBT 79点を基本標準とする高度な外国語運用能力、② 日本と世界の近現代史及び世界の諸宗教についての十分な理解力、③ 専門教育によって培われる専門領域の知識、④ 他者を理解し、他者に配慮できる、バランス感覚に優れた感性と品性、⑤ グローバル社会における「公正」と「正義」の実現を求める高度な倫理性が挙げられる。

本構想において実現する達成目標及び実績

全 学		達成実績					達成目標
		2011	2012	2013	2014	2015	2016
外国語力スタンダードを満たす学生数				360人	517人	565人	1,200人
うち海外留学未経験者数(A)				230人	260人	281人	579人
海外留学経験者数(B)		693人	729人	565人	769人	832人	1,800人
卒業〔予定〕者数(C)		5,505人	5,679人	5,782人	6,166人	5,874人	6,015人
比率((A+B)/C)				13.7%	16.7%	18.9%	39.6%
神	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		2(1)	5(5)	0(0)	9(6)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	15／55	14／64	19／68	14／82	9／44	27／60
文	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		108(64)	105(49)	140(70)	120(43)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	140／655	143／666	113／643	138／704	131／698	235／670
社会	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		12(6)	16(6)	10(3)	63(40)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	34／449	60／376	69／431	78／457	76／406	120／450
法	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		94(71)	90(64)	89(68)	155(45)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	70／870	77／920	61／890	75／875	77／856	236／850
経済	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		40(23)	39(17)	51(35)	90(80)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	192／850	172／850	95／867	79／883	107／890	245／850
商	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		41(20)	68(47)	78(49)	148(135)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	149／846	132／881	94／870	124／896	130／820	223／850
政策	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		10(8)	45(22)	41(22)	58(30)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	35／331	39／392	37／365	69／446	59／393	110／375
*文情	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点、国連英検A級相当		17(11)	11(4)	19(14)	47(30)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	14／256	47／280	30／268	38／262	64／333	71／280
理工	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		15(12)	27(20)	15(9)	95(90)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	11／780	19／738	17／828	28／875	32／722	110／760
*生命	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		10(8)	11(10)	8(6)	48(28)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	20／202	13／212	16／262	9／275	14／268	46／210
*ス健	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		5(3)	6(5)	6(3)	39(36)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	5／135	3／160	5／160	6／146	6／169	40／210
心理	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当		6(3)	12(11)	4(2)	28(16)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	8／76	10／140	9／130	10／164	7／155	37／150
]英語*GC	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点相当、IELTS6.0		0(0)	54(0)	79(0)	80(0)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	—／—	—／—	—／—	66／66	81／81	80／80
中国語*GC	卒業時の外国語力スタンダード	中国語検定2級、あるいは漢語水平考試(HSK)5級		0(0)	28(0)	25(0)	40(0)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	—／—	—／—	—／—	35／35	39／39	40／40
*GR	卒業時の外国語力スタンダード	TOEFL-iBT 79点、CEFR B1相当合格者		0(0)	0(0)	0(0)	180(0)
	海外留学経験者数／卒業〔予定〕者数	—	—	—／—	—／—	—／—	180／180

*文情：文化情報学部、生命：生命医科学部、ス健：スポーツ健康科学部、GC：グローバル・コミュニケーション学部、GR：グローバル地域文化学部 単位(人)
 ※構想調査において各学部の達成目標として設定していた海外留学経験者数に一部卒業〔予定〕者数に該当しない数値が計上されていたため、正確な数値へ修正した。
 但し、最終年度における達成目標数値の変更はない。

※1) 学部数が多く、本表が1頁以内に収まらない場合は、「海外留学経験者数」の期間別内訳を省略しても可。
 ※2) 「外国語力スタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の()内は、外国語力スタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。
 ※3) 上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。

スーパーグローバル大学等事業

「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」最終報告書

発行日 2017 年 3 月

発 行 同志社大学国際化推進室

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入